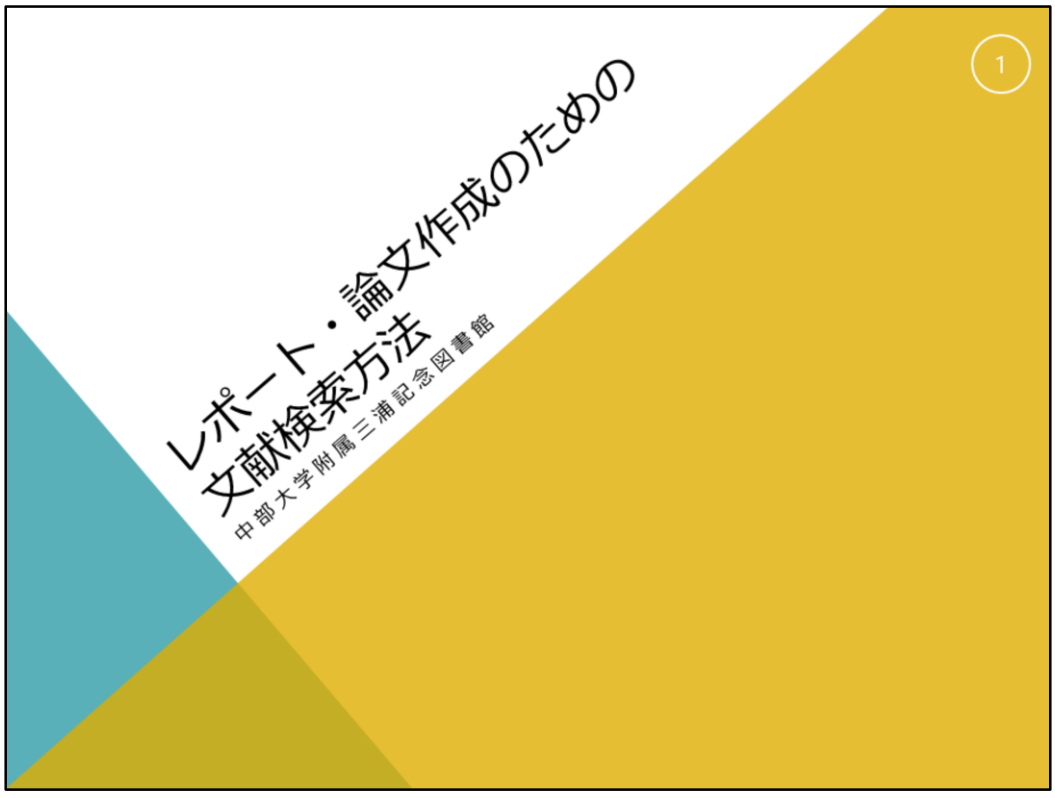
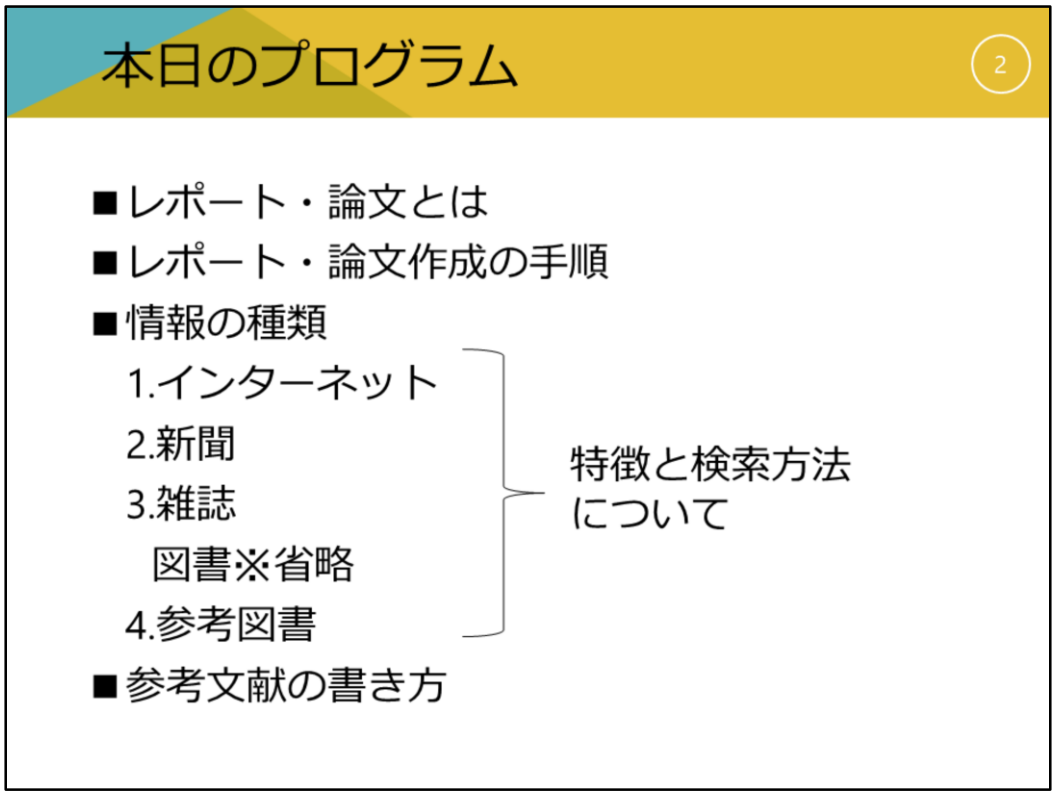


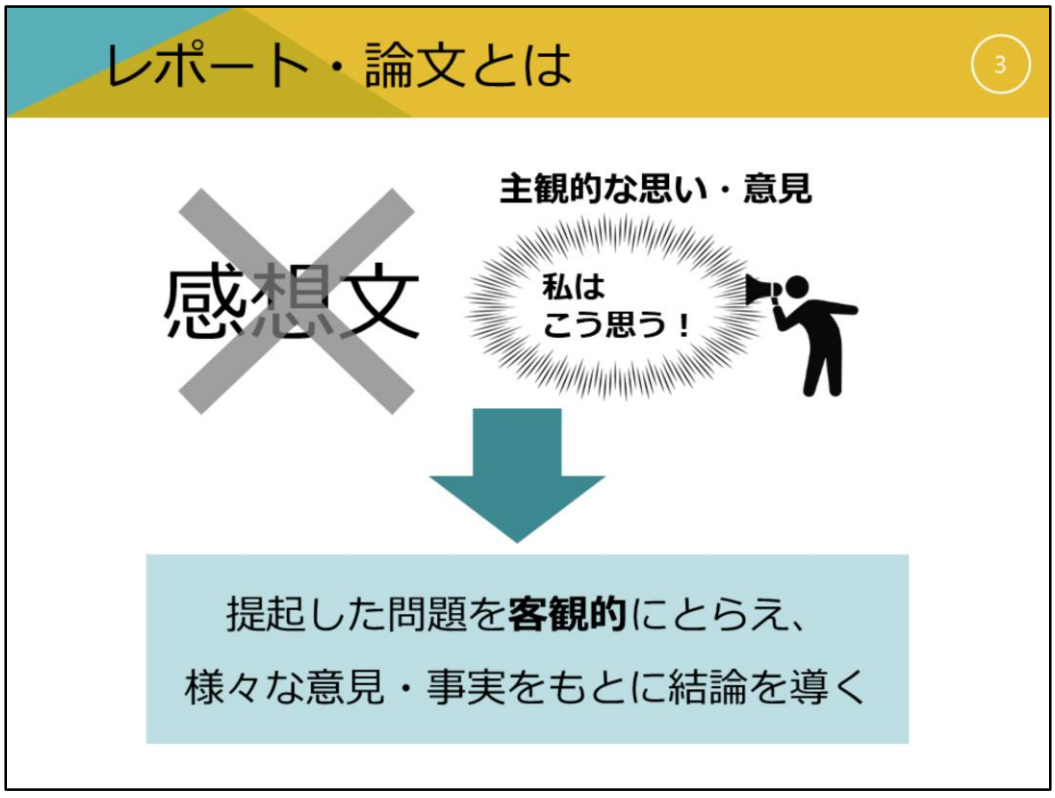
みなさん、こんにちは。
このスライドでは、レポート・論文作成のための文献検索方法について、説明していきたいと思います。



それでは、本日のプログラムです。

■レポート・論文とは
■レポート・論文作成の手順
■情報の種類・・・特徴と検索方法について
1.インターネット
2.新聞
3.雑誌
4.参考図書
■参考文献の書き方
以上になります。

※図書の検索方法につきましては割愛させていただきます。



それでは始めましょう。
まず、レポート・論文について説明します。
レポート・論文とは、
自分の主観的な思い・意見を述べる感想文と異なり、自分で提起した問題を客観的にとらえ、
様々な意見・事実をもとに結論を導いていく、学術的な文章です。
「問い」と「答え」、それらを裏付けする説明の3点で構成され、形式にも一定のルールが存在します。



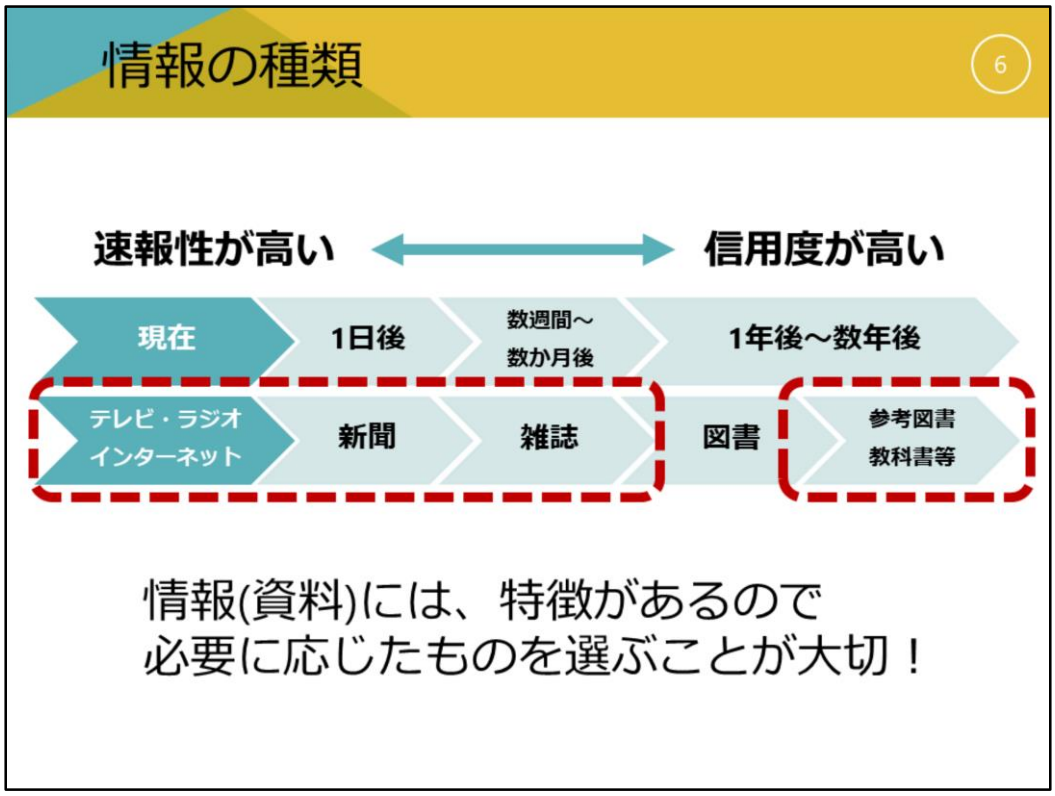
ここに、レポート・論文作成の手順を簡単な図に表わしたものがあります。
左下から、
・論文のテーマを決める
・テーマについての情報を集める
・問いを設定する
・問いを解決するための情報を集める
・アウトライン・章立てを考える
・書く
とあります。

赤い文字で『情報を集める』とありますが、
さきほどお話ししたとおり、レポート・論文作成では、
『提起した問題を客観的にとらえ、様々な意見・事実をもとに結論を導』かなくてはならないため、
情報を集める文献検索が重要です。

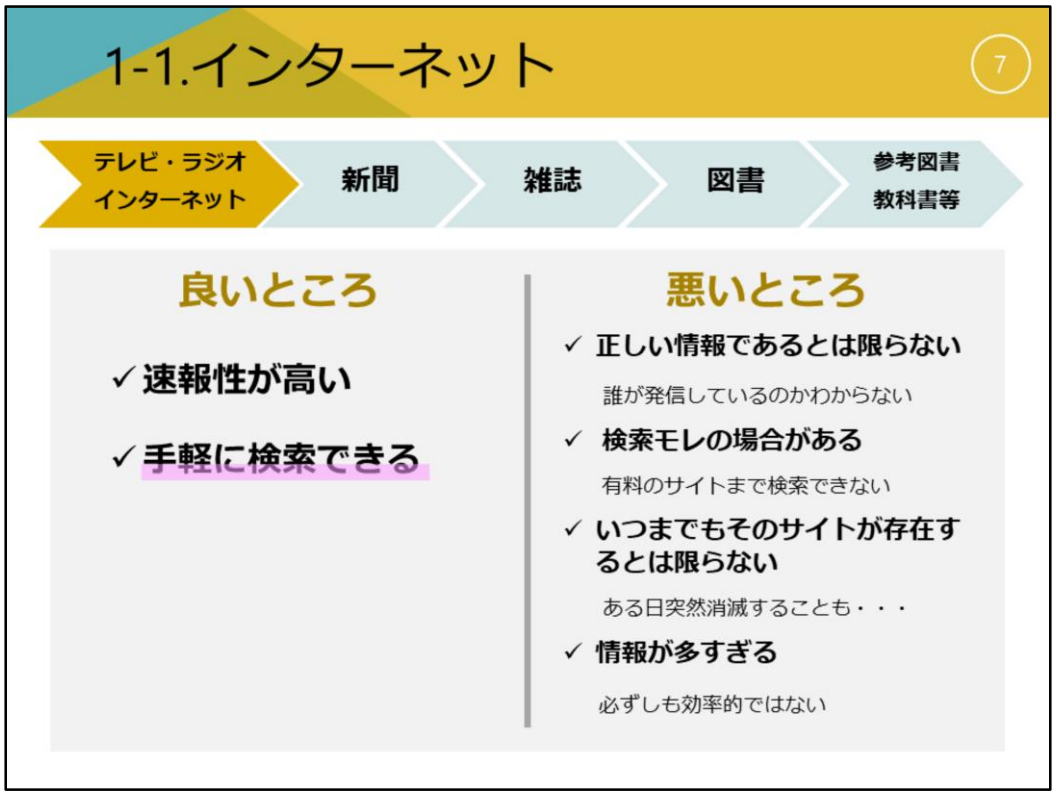
今日はこの文献検索の方法について勉強していきます。
ではまず、「情報」の種類について簡単に説明します。



たとえば地震が起こったとき、まず、テレビ、ラジオ、インターネットなどで震度など速報が流れます。
次に翌日、被害の詳細が新聞記事に掲載されます。
ここまでの情報は、速報性は高いのですが、信用度はあまり高くありません。
日を追うごとに被害は大きくなったり小さくなったりします。
次に数週間～数か月後に雑誌では特集などが組まれ、出来事の背景や問題点など、より詳しい解説が掲載されます。
そして1年後～数年後には被害についての研究成果が図書となり、最もまとまった情報を手にいれることができます。
このあたりの情報は地震が起きてから、かなり時間がたっているため信用度が高いといえます。
図書のなかでも、参考図書や教科書には、間違いがないであろう情報が掲載されます。



左に行くほど速報性が高く、右に行くほど信用度が高くなります。
情報は、媒体によって性質に違いがあるので、必要に応じたものを選ぶことが大切です。
今日は、赤い点線で囲まれた資料について、情報の種類ごとにその検索方法について説明していきます。



インターネットの情報について、
なによりも手軽に検索できるという点で優れています。
自分に都合の良いタイミングで自分の欲しい情報を手に入れることができます。
また、テレビやラジオと同じく速報性という点でも優れています。
それに対して、悪いところは以下のとおりです。

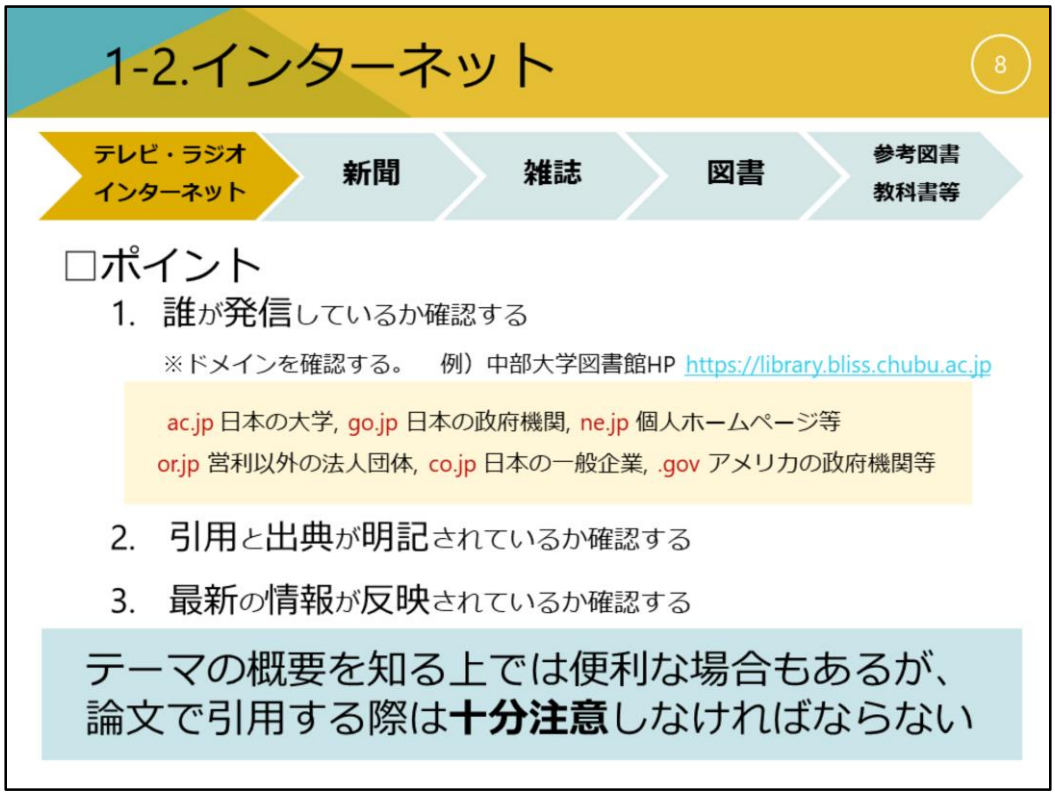
・正しい情報であるとは限らず、だれが発信しているのかわからない。
　※わからない言葉があった時、すぐにWikipediaで検索されるかたは多いかと思いますが、
　　Wikipediaはだれでも編集ができるオンラインの百科事典です。
　　そのため利用については慎重にならなくてはなりません。

・検索モレの場合がある。
　googleなどでは、有料サイトまで検索ができません。

・いつまでもそのサイトがあるとは限らない。
　ある日突然そのサイトが消滅するということもあります。

・情報が多すぎる。
　情報が多すぎると逆に必要な情報にたどり着くまでに時間がかかりすぎてしまう場合があります。

など、効率的でない場合があります。



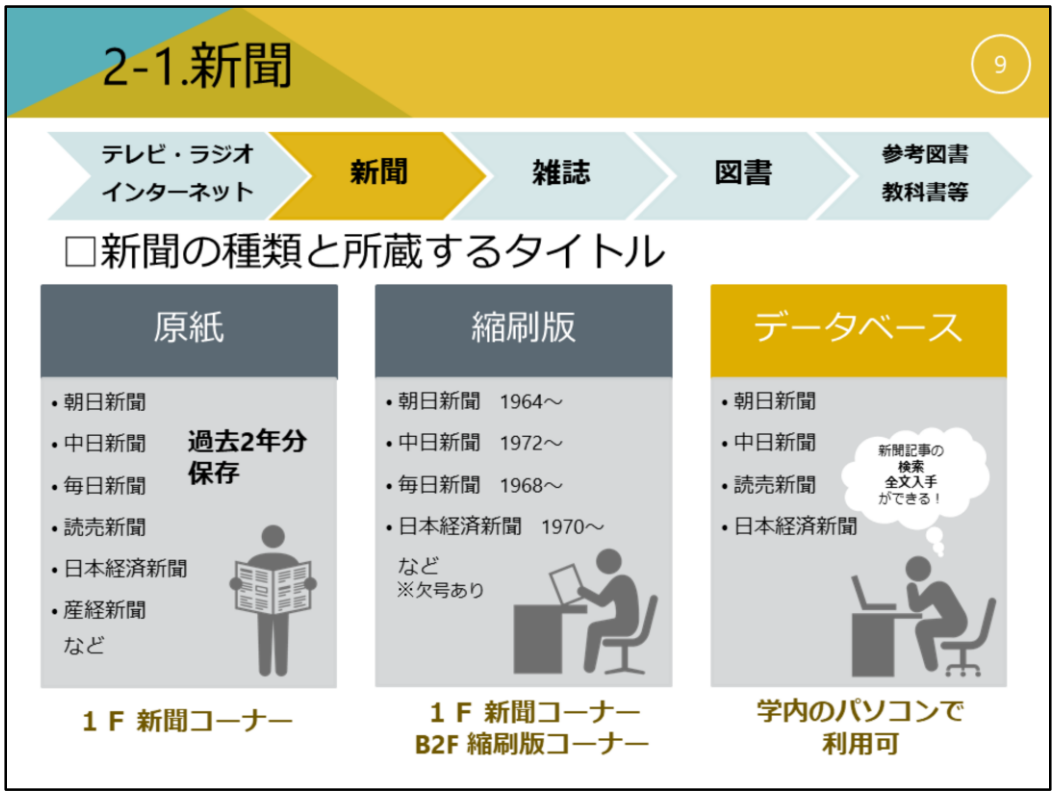
前述を踏まえた上で、インターネットの情報を取得する際のポイントは以下になります。

1. 誰が発信しているか
   その情報を誰が発信しているか確認することがとても重要です。
   ドメインを見るのも一つの方法です。
   例）中部大学図書館HP　https://www.bliss.chubu.ac.jp
   公的な機関が発信している情報は信用度が高いといえます。

2. 引用と出典が明記されているか
   その情報がどこから引用されたものか情報源を見極める必要があります。

3. 最新の情報が反映されているか
   いつの時点の情報か確認しましょう。
   情報が更新されないまま放置されているものもあります。

インターネットの情報は論文・レポートを書く際に、テーマの概要を知る上では便利ですが、間違った情報もたくさんあります。
論文で使用するには十分注意しなくてはなりません。



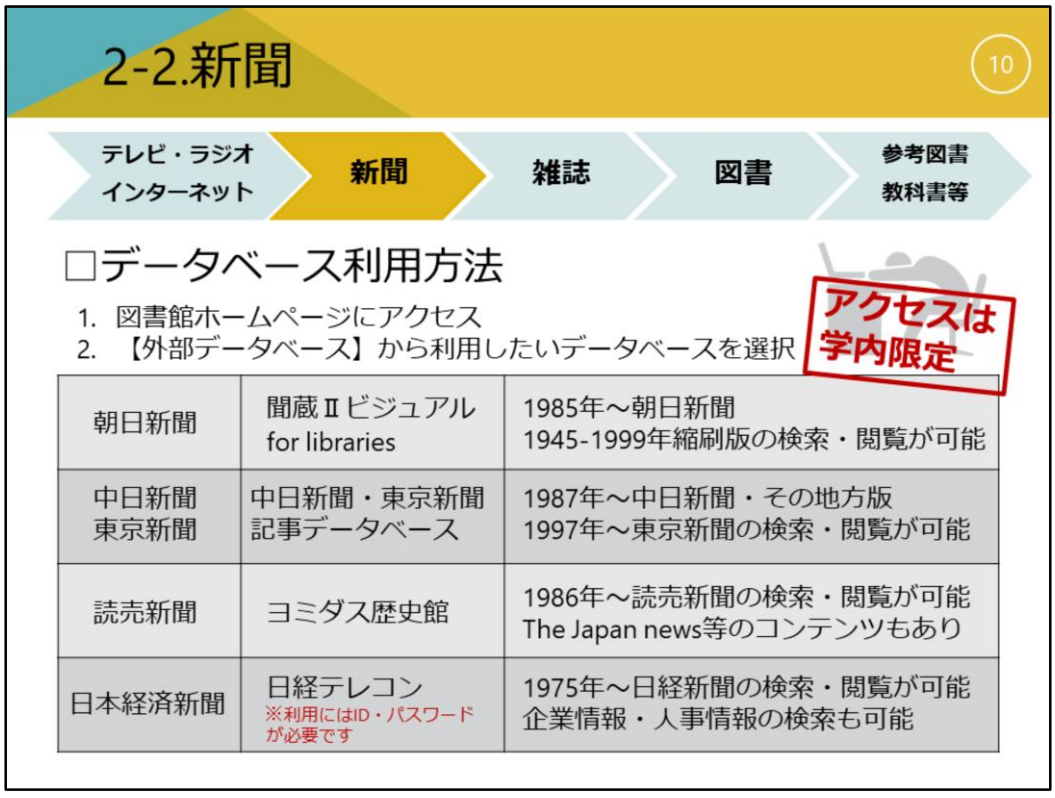
新聞について

中部大学の図書館で所蔵している新聞の種類と所蔵するタイトルです。

原紙というのはみなさんがよく見る一般的な紙の新聞のことです。
図書館では過去2年分の原紙を保存しています。
図書館1階の新聞コーナーではそのうち3か月前のものまでを自由にみることができます。

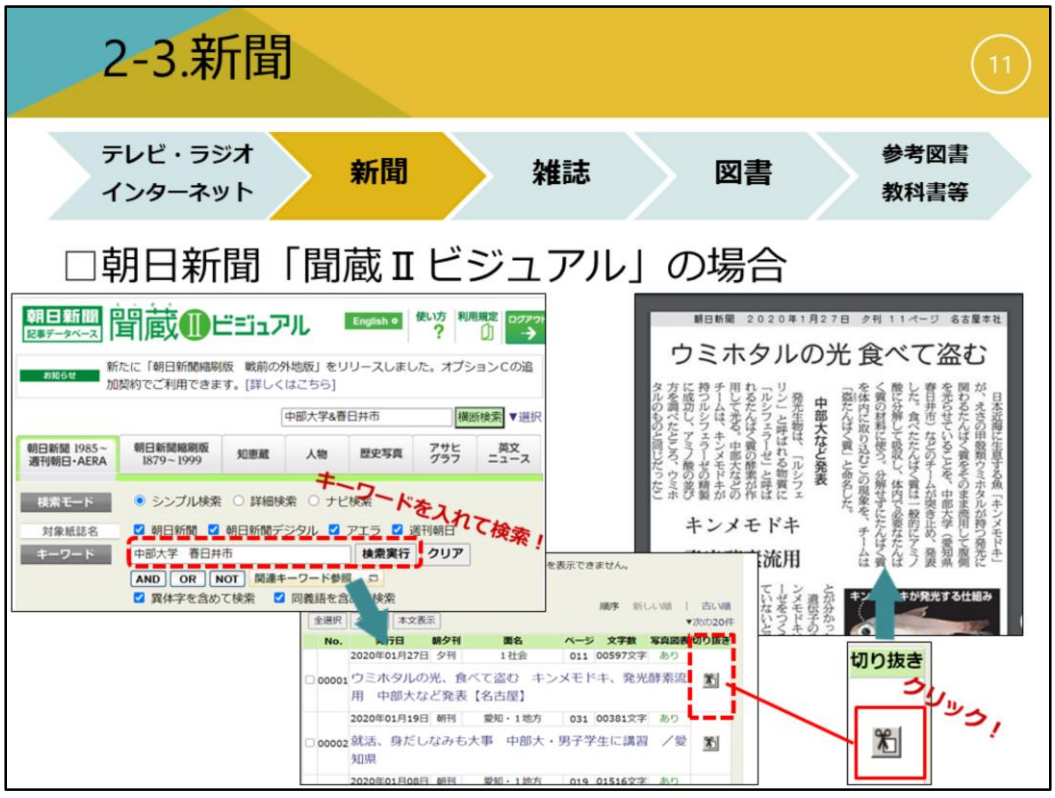
次に縮刷版ですが、これは誌面を縮小印刷し、一か月分の新聞を一冊の分厚い本にまとめたものです。
新しいものは1階の新聞コーナーにありますが、古いものは地下書庫にあります。

データベースは新聞記事の検索と全文の入手が可能で、学内のパソコンであればどこでも利用できます。

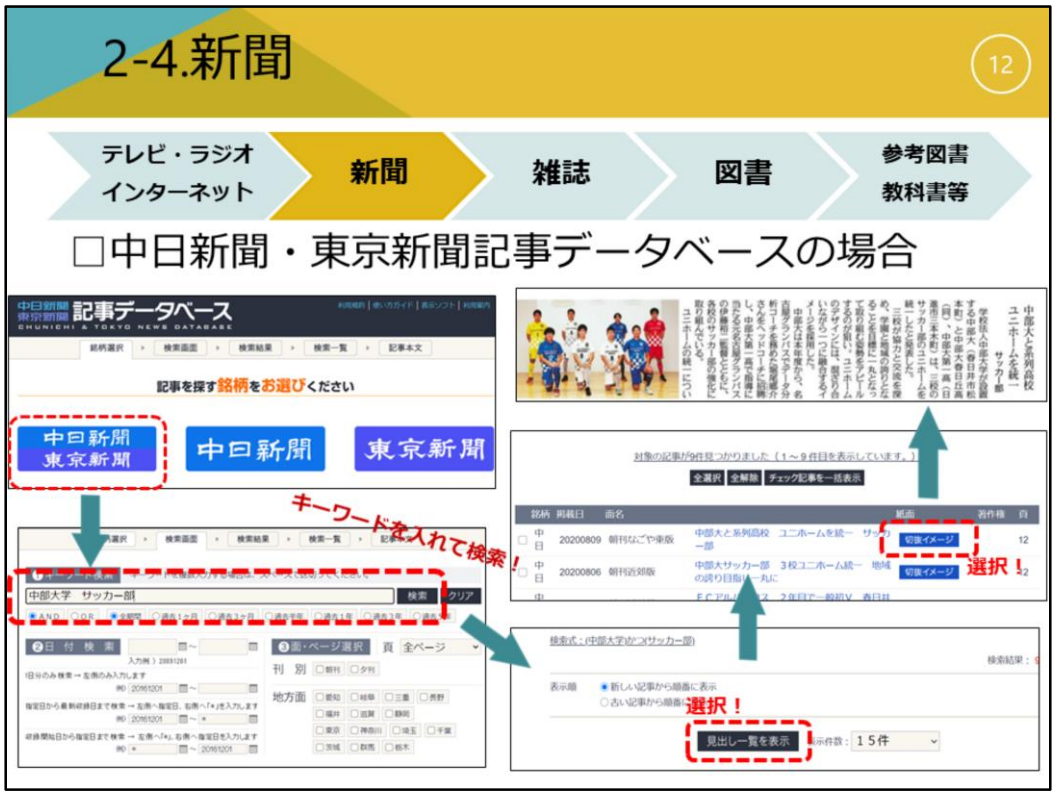


データベースの利用方法です。
まず、図書館のホームページにアクセスし、外部データベースから利用したいデータベースを選択し利用します。
中部大学では、スライド上の表にある新聞のデータベースを利用できます。
それぞれ新聞名とデータベースのタイトルが少しづつ異なるので注意してください。
また、アクセスは学内限定で、サイトによって、アクセス数に制限があります。
すでに誰かが使用していて使えないときは少し時間を空けてからアクセスしてみてください。
利用が終わったら必ずログアウトをしてください。

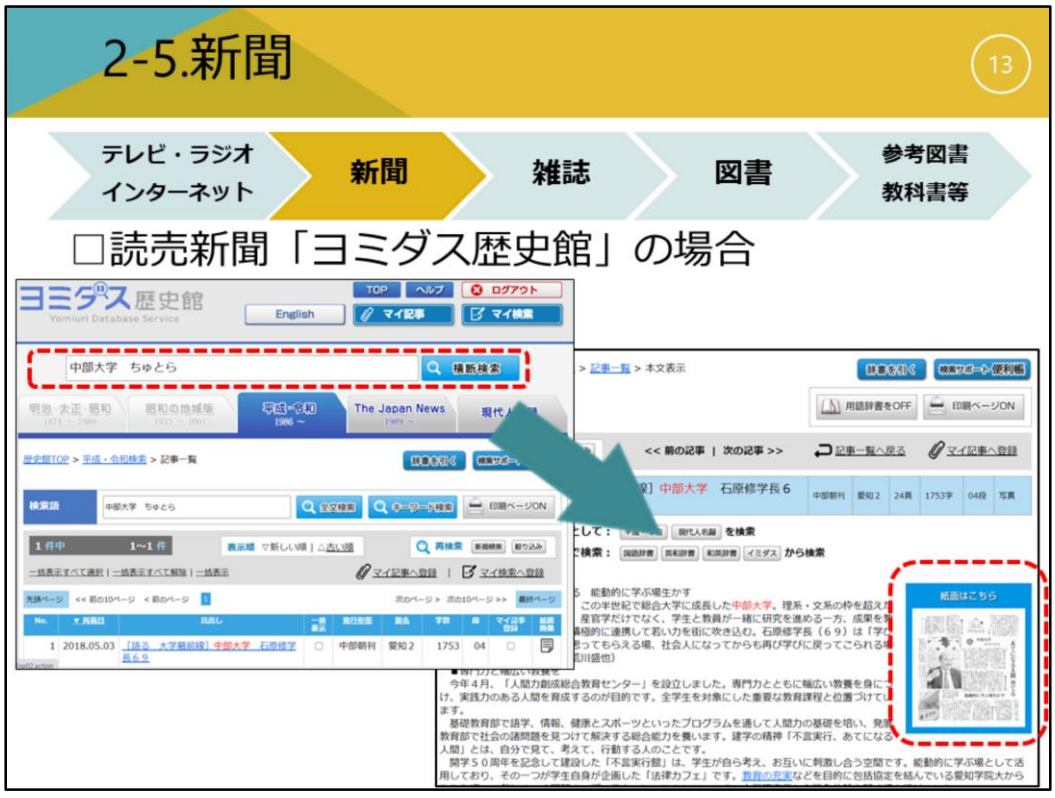
では、実際に外部データベースの画面を見てみたいと思います。



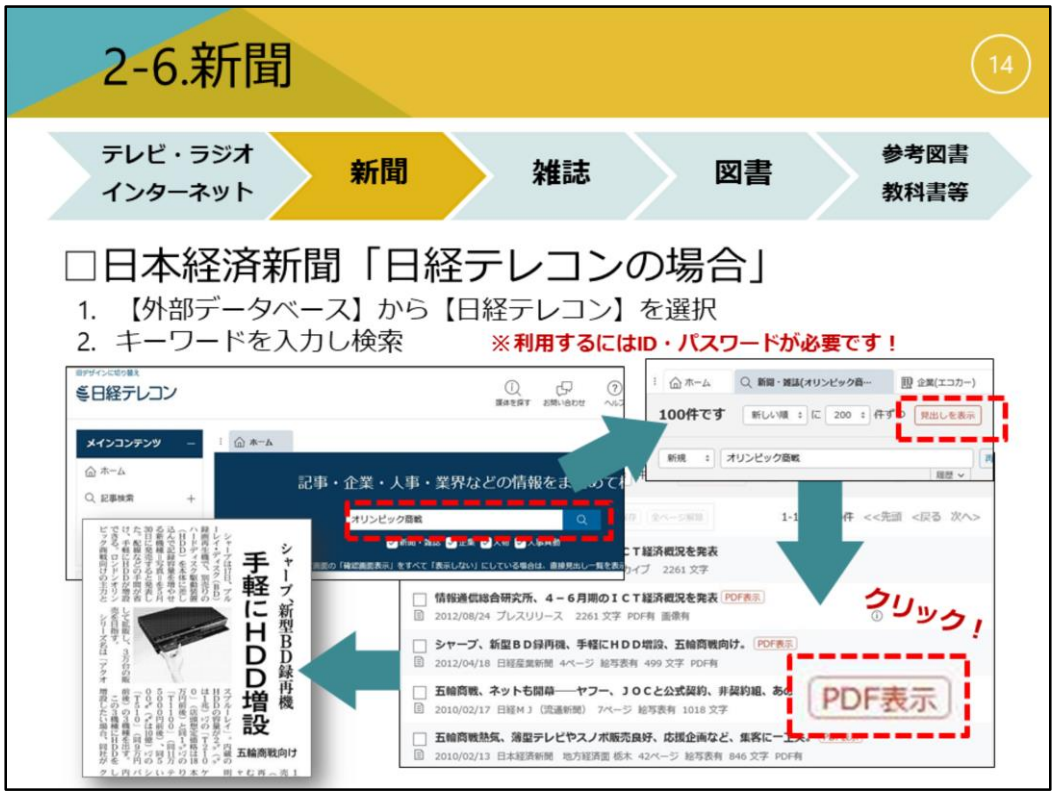
朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」。
朝日新聞の検索と全文入手ができます。ID・パスワードは不要です。
キーワード検索をすると検索結果が表示されます。
この場合は、【中部大学　春日井市】で検索をしました。
聞蔵Ⅱビジュアルではハサミのアイコンをクリックすると新聞に掲載された記事の画像をPDFでみることができます。



「中日新聞東京新聞記事データベース」
記事の検索と全文入手ができます。ID・パスワードは不要です。
キーワード検索をすると検索結果が表示されます。
この場合は、【中部大学　サッカー部】で検索をしました。
このデータベースでは、切抜イメージのアイコンをクリックすると新聞に掲載された記事の画像をPDFでみることができます。

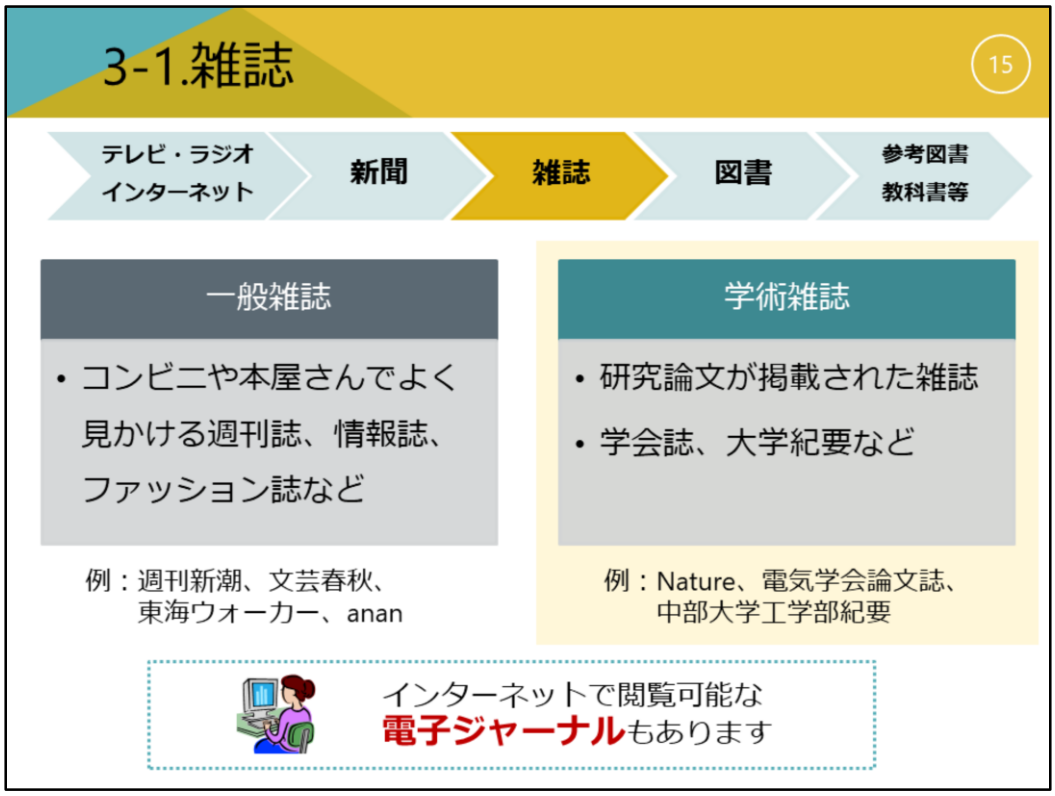


読売新聞「ヨミダス歴史館」
記事の検索と全文入手ができます。ID・パスワードは不要です。
キーワード検索をすると検索結果が表示されます。
この場合は、【中部大学　ちゅとら】で検索をしました。
このデータベースでは、検索結果を選択し、「紙面はこちら」をクリックすると新聞に掲載された記事の画像をPDFでみることができます。



日本経済新聞・日経テレコン21
日経テレコン21は日経新聞の検索と全文入手ができます。
日経テレコン21は利用するのにID・パスワードが必要です。
ログインをして、キーワード検索をするとこのように検索結果が表示されます。
この場合は、【3Dプリンター　金属】で検索をしました。
日経テレコン21ではPDF表示のボタンをクリックすると新聞に掲載された記事の画像をPDFでみることができます。

以上4種類が、本学で利用できる新聞のデータベースでした。



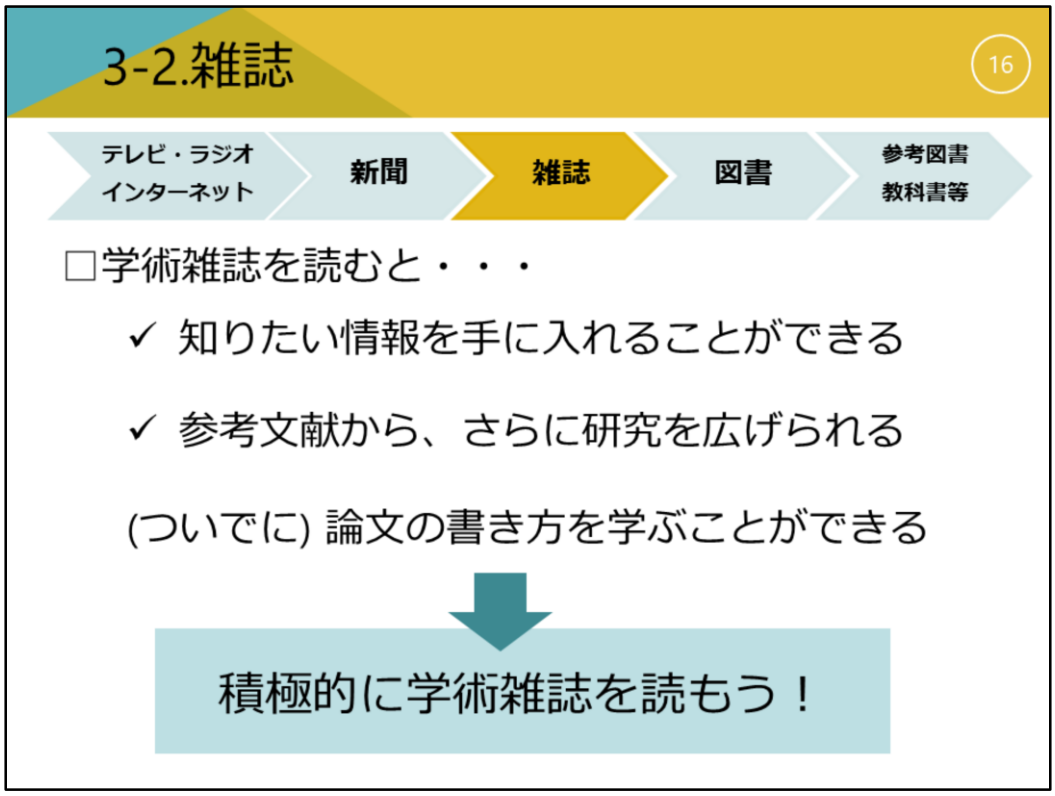
雑誌には大別すると一般雑誌と学術雑誌があります。

一般雑誌とは
コンビニや書店でよくみかける週刊誌、情報誌、ファッション誌などのことを言います。
皆さんが普段読まれる雑誌は一般雑誌が多いのではないかと思います。

学術雑誌とは
研究者の執筆した研究論文が掲載された雑誌のことを指します。
学会誌や紀要とよばれる大学が発行している雑誌などは学術雑誌になります。

また、雑誌には紙媒体のもの以外に、インターネットで閲覧できる電子ジャーナルもあります。

論文やレポートを書くためには多くの学術雑誌を読むことが重要になるでしょう。



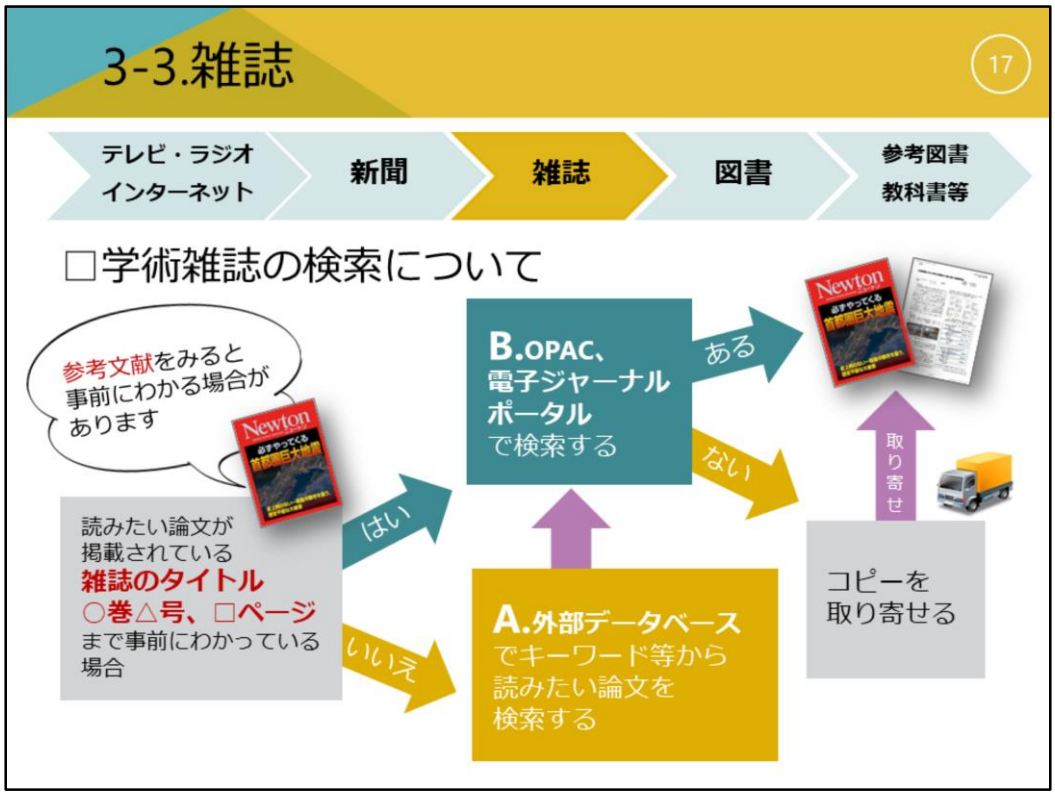
学術雑誌を読むことで

- 知りたい情報を手に入れることができます。

- 論文の最後には参考文献といって、その論文を執筆した際に著者が参考とした資料の情報が掲載されています。それらの情報を入手することで、さらに研究の幅が広がります。

また、学術雑誌を読むことによって、論文がどのように書かれているか、書き方を学ぶことができるなど、
論文やレポートを作成する上で、大きな助けになります。

積極的に学術雑誌を読むとよいでしょう。



学術雑誌の検索手順について
もし、参考文献などを見て、事前に読みたい論文の掲載されている【雑誌のタイトル、巻号、ページ】といった情報がわかっている場合は、

B. OPAC,電子ジャーナルポータルを使い、雑誌のタイトルからその論文の所在を調べることができます。
中部大学にある場合、電子ジャーナルで見られる場合は、すぐに本文までたどり着くことができます。
ない場合は他大学などから論文のコピーを取り寄せることができます。

また、論文の掲載情報がわからない場合、読みたい論文が特定されていない場合は、

A. 外部データベースを利用し、自分の気になるキーワードや著者名から読みたい論文を検索していきます。



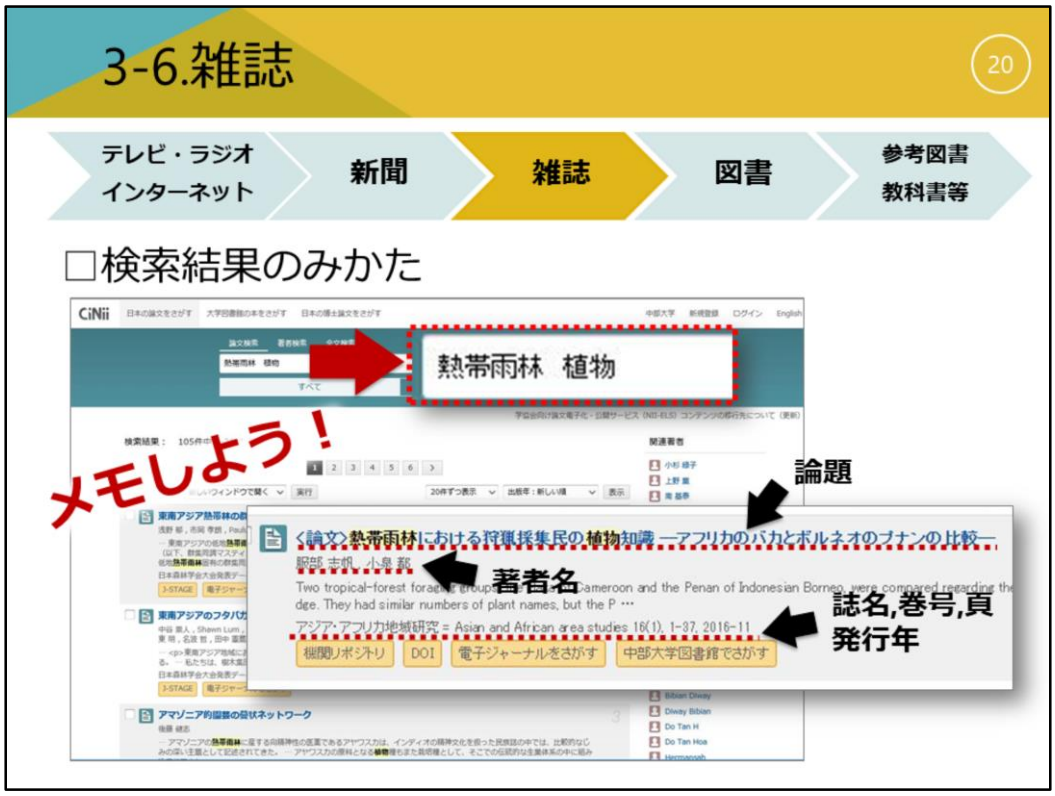
外部データベースは図書館ホームページのトップページにある「外部データベース」のタブからアクセスします。
論文を検索するための主な外部データベースにCiNiiやJdream Ⅲなどがあります。
これらは基本的には学内での利用となります。



CiNii Articles…
国立情報学研究所が提供するデータベース。
国内で発行された学術雑誌、大学紀要に掲載された論文を検索することができる。

CiNiiで検索する場合、
外部データベースからCiNIi Articlesを選択し、論文検索の画面でキーワードを入力し検索をします。

CiNiiへは、図書館ホームページの外部データベースからアクセスできます。



では試しに、【熱帯雨林　植物】のキーワードで検索をします。
そうすると検索結果が表示されます。
その中から、一つ選んでみると、このとき表示されている情報はこのようになります。

〈論文〉熱帯雨林における狩猟採集民の植物知識-アフリカの～…論題（論文のタイトル）
服部志帆、小泉都…論文を書いた著者の名前
アジア・アフリカ地域研究…掲載されている雑誌のタイトル
16(1)…掲載されている巻号、16巻1号のこと
1-37…論文が掲載されているページ
2016-11…論文が掲載されている雑誌の発行年と月

この論文が読みたい場合はこれらの情報をメモします。
タイトルの部分をクリックすると詳細画面になります。

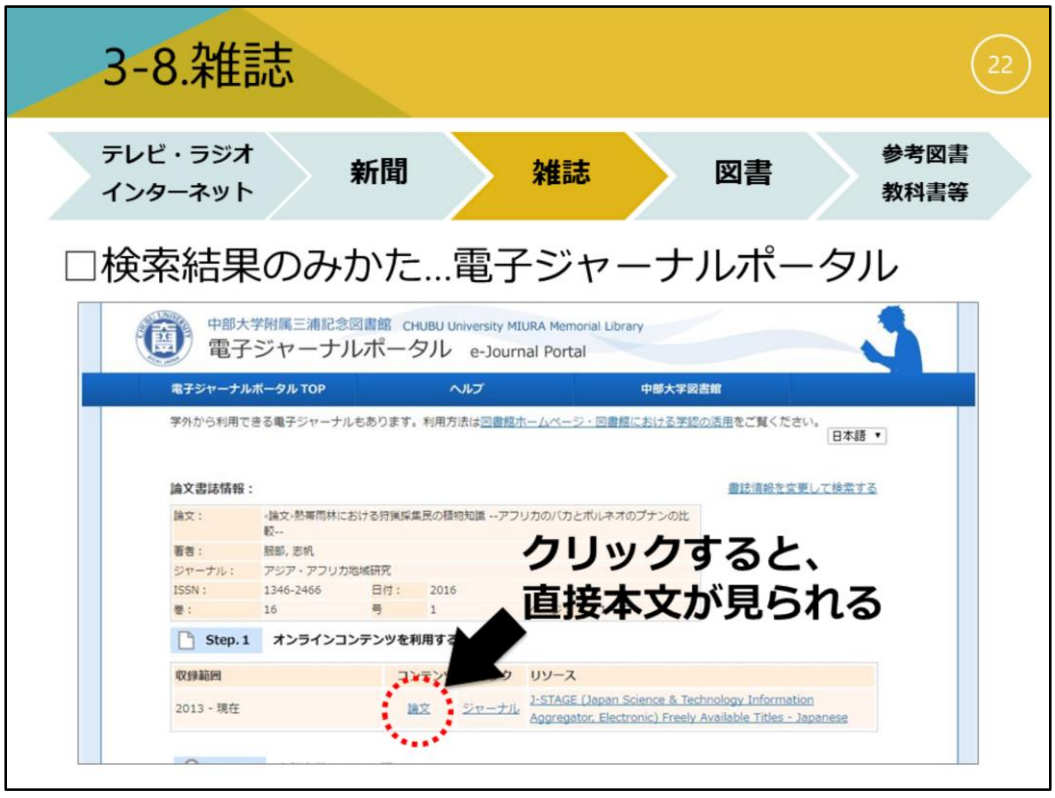


この詳細画面でも、論題、著者名、掲載誌名や、巻号、ページは確認できます。
そして、【この論文にアクセスする】または、【この論文をさがす】のところを見ると、いくつものアイコンが並んでいます。 これらをクリックすると

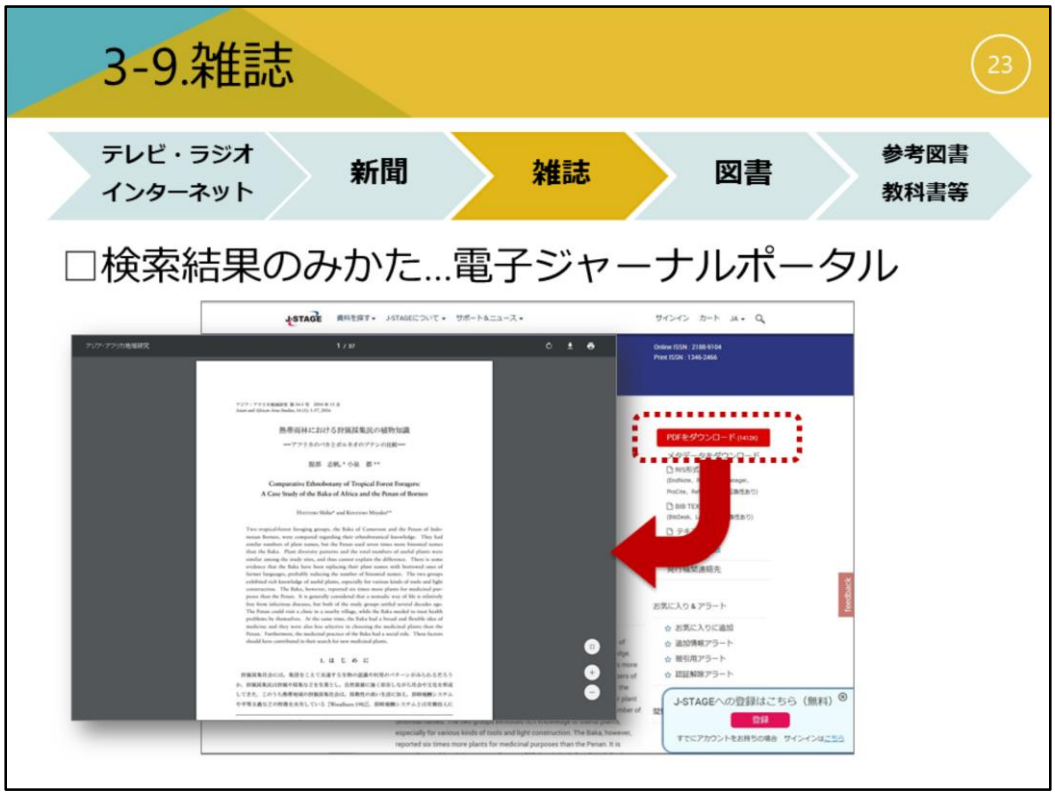
【医中誌Web】【CiNIi Books】【NDL-OPAC】はそれぞれ別のデータベースにリンクしています。※この場合は【CiNIi Books】のみ
【電子ジャーナルをさがす】は、中部大学で契約している電子ジャーナルを検索する画面へリンクします。
【中部大学図書館でさがす】は、中部大学図書館OPAC（蔵書検索）の画面にリンクします。

それ以外のアイコン、たとえば、【DOI】*1や、【機関リポジトリ】*2などがある場合はクリックすると直接本文が見られる場合があります。
今回の場合は、オレンジ色のボタンがありますので、実はここから論文の全文を見ることができますが、このボタンが表示されない場合もあります。その場合の探し方ということで、【電子ジャーナルをさがす】をクリックしてもらいたいと思います。
クリックすると、電子ジャーナルポータルの画面になります。

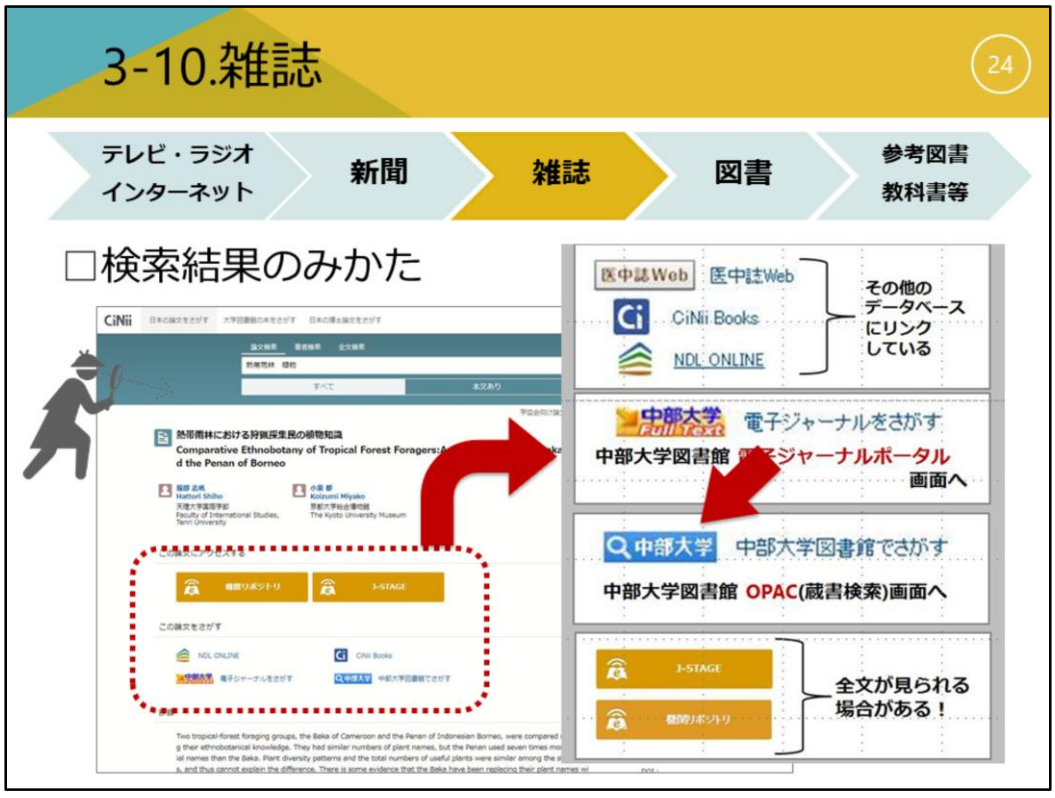
*1【DOI (Digital Object Identifier】
→ Web上の電子文献と一対一に対応しているコード
*2【機関リポジトリ】
→ 大学や研究機関が主体となって所属研究者の知的生産物を電子的に収集、蓄積、提供するシステムやサービスのこと



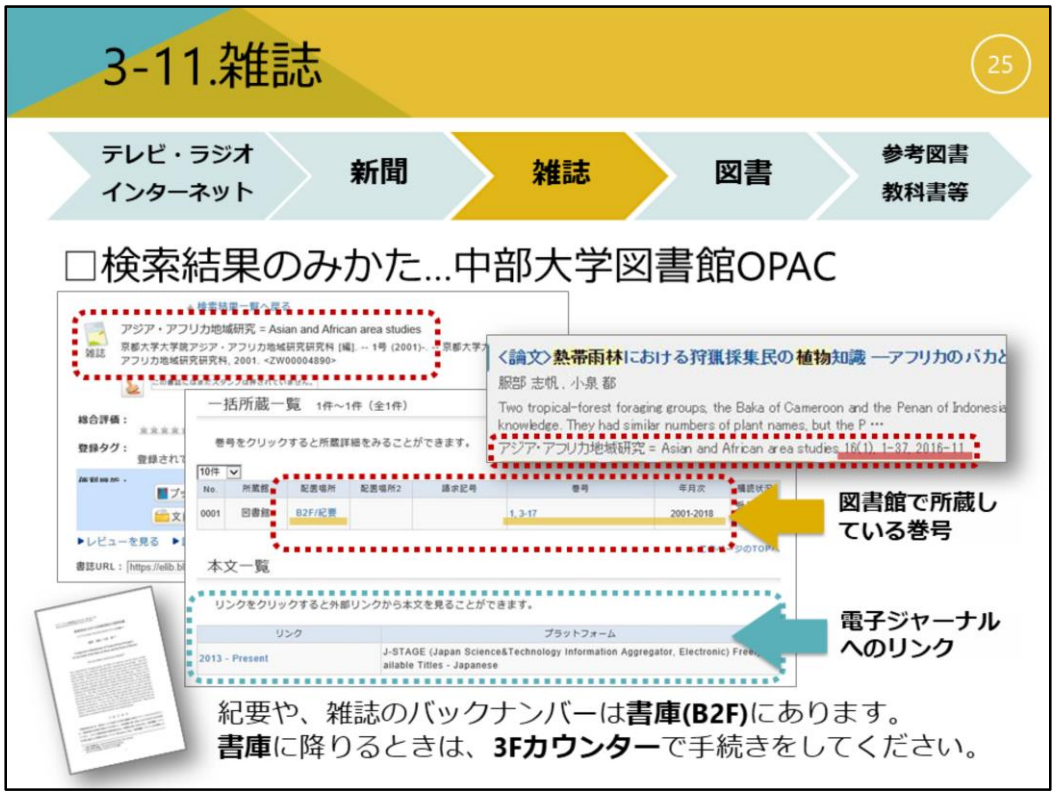
【電子ジャーナルをさがす】をクリックするとこのような画面になります。
電子ジャーナルで閲覧可能なものは
【オンラインコンテンツを利用する】のところに収録範囲、コンテンツへのリンクなどが表示されます。
そういったものは、この【論文】をクリックすると直接本文をみることができます。



クリックするとJ-STAGEの画面になり、【本文PDF】をクリックすると
このように本文をPDFで見ることができます。

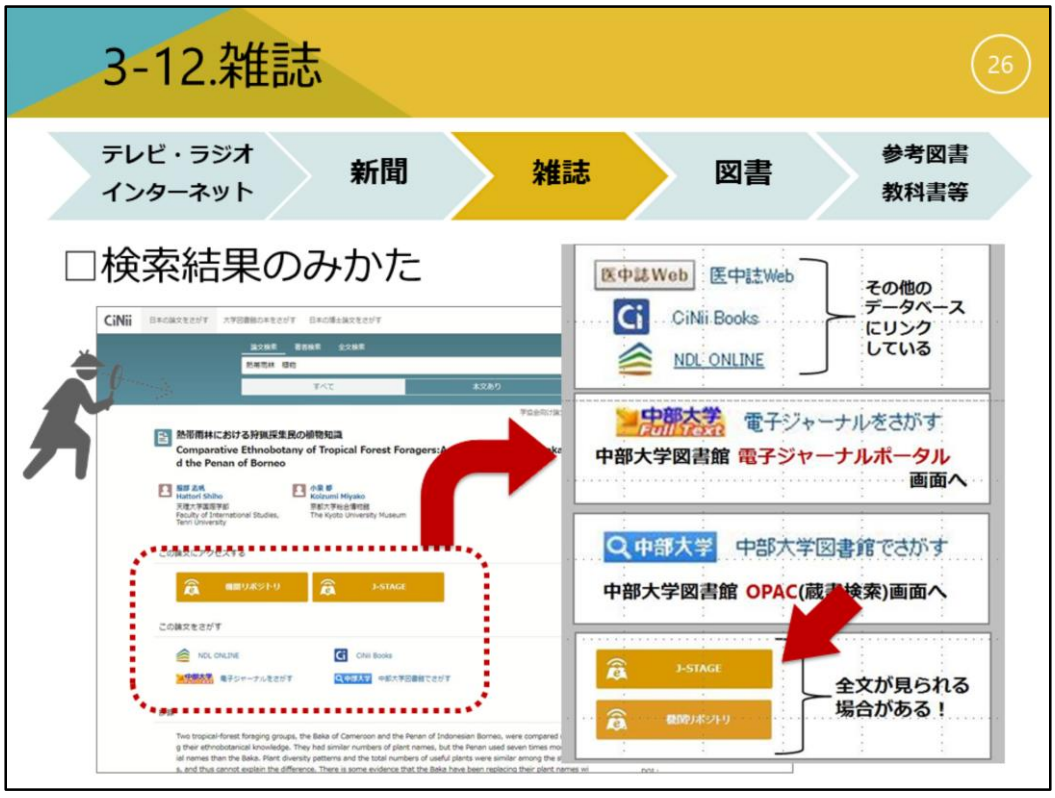


では次に、探している論文が中部大学にあるか調べる方法です。
画面にあるとおり、矢印の先「中部大学図書館でさがす」とありますが、これを選択してください。



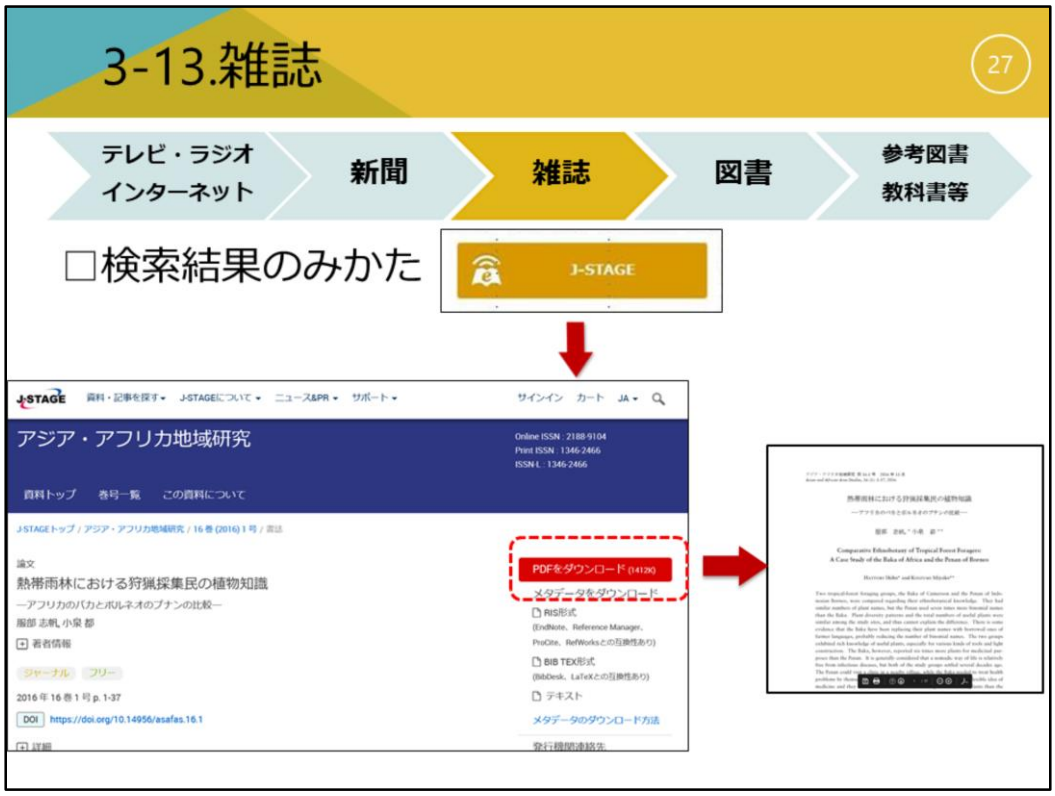
ここで検索結果をメモしたものが必要になります。
「熱帯雨林における狩猟採集民の植物知識-アフリカの～」という論文は『アジア・アフリカ地域研究』というタイトルの雑誌の16巻1号に掲載されていました。
OPACの画面を見ると16巻は【B2F/紀要コーナー】にあることがわかります。
大学が発行している雑誌のことを紀要といいますが、
B2Fの紀要コーナーでは大学の名前の50音順で紀要がならんでいます。
また、紀要ではない学術雑誌の最新号は3階、バックナンバーはB2Fにあります。
そのため配置場所が二つに分かれている場合もあります。
紀要や、雑誌のバックナンバーをみたい場合は、書庫に降りなくてはなりません。
画面では、右上に利用可能な電子リソースとしてさきほど電子ジャーナルポータルで表示された電子ジャーナルへのリンクもみることができます。
こちらをクリックすると図書館の地下書庫に行かなくても先ほどと同じようにパソコンの画面で本文を見ることができます。

今回のように論文が掲載されている雑誌が大学が発行している紀要の場合、多くのものが大学のリポジトリで見ることができます。
もういちど検索結果にもどります。



次に、「J-STAGE」と「機関リポジトリ」で全文がみられる場合を説明します。

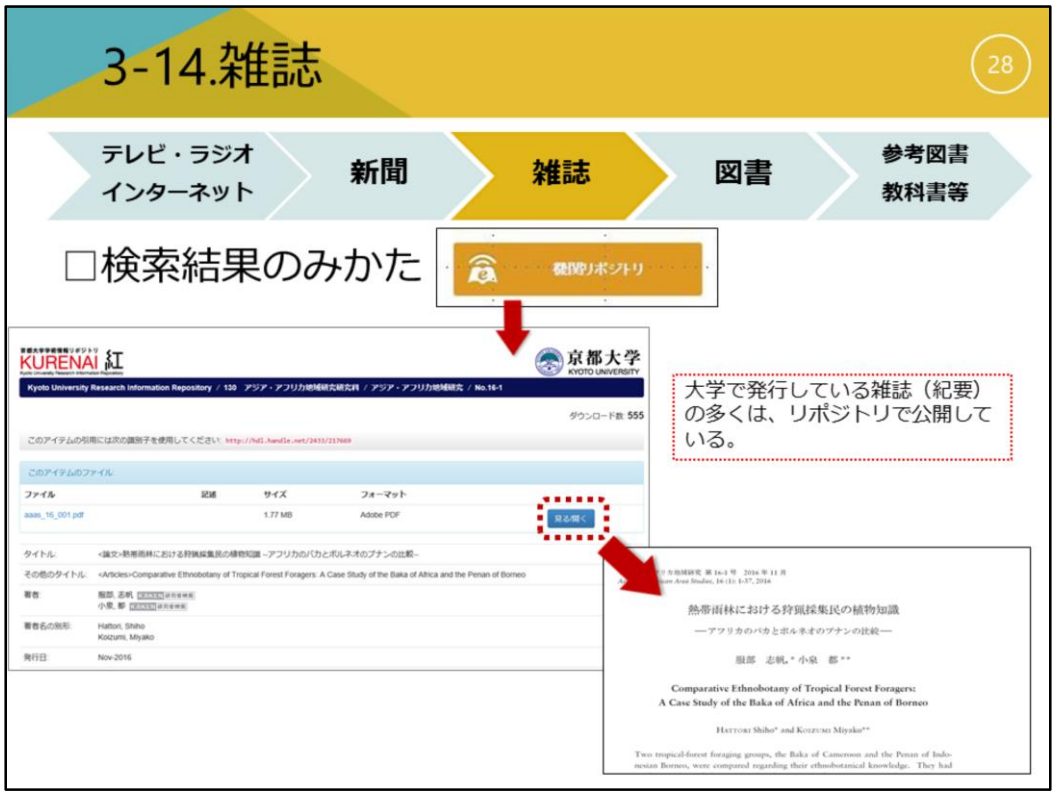
それでは、「J-STAGE」から見ていきましょう



「J-STAGE」のアイコンが表示されている場合は、「J-STAGE」に本文がある可能性があります。

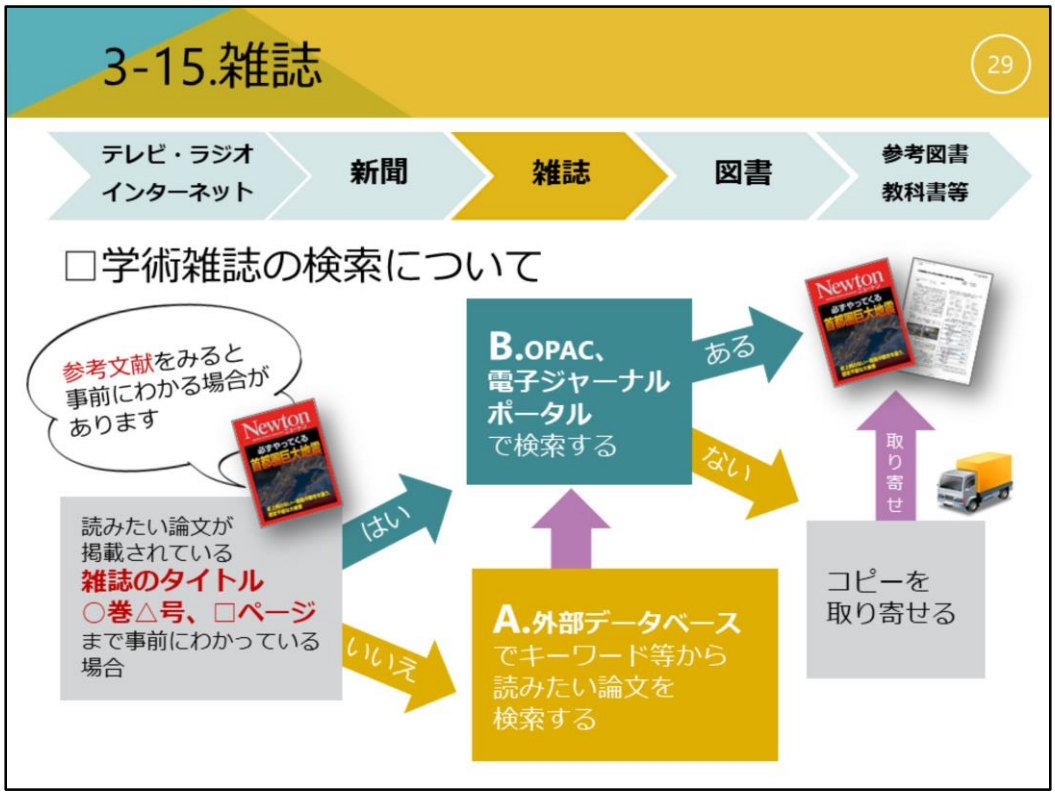
アイコンをクリックするとまず、「J-STAGE」の該当ページにアクセスします。

スライドのように、「PDFをダウンロード」というアイコンがある場合は本文がダウンロードできます。

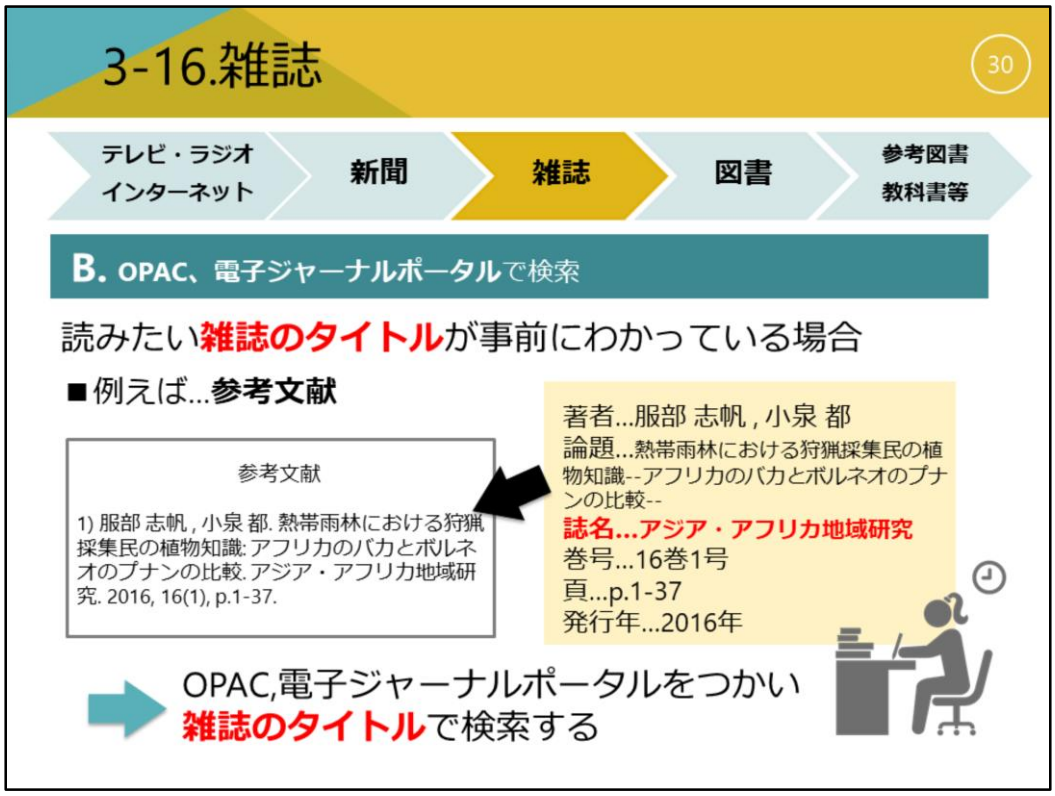


次に「機関リポジトリ」の説明です。

アイコンをクリックすると該当する論文を公開している機関のHP画面になります。
【見る】や【本文(PDF)】など、形式は機関により違いますが
本文を公開している場合は表示するアイコンがありますので、それをクリックすると
このように本文をPDFで見ることができます。

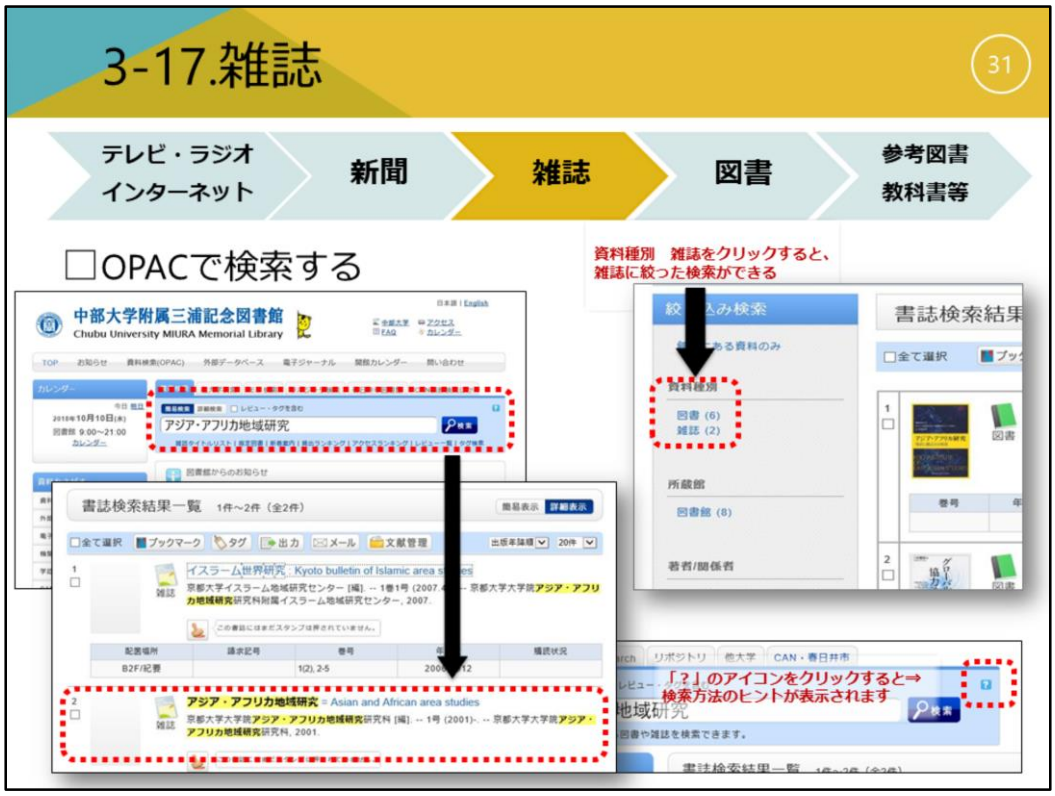


では、次に、読みたい雑誌のタイトルが事前に分かっている場合について、
B.　OPAC,電子ジャーナルポータルで検索する方法をみていきましょう。



通常、論文の最後にはこのように参考文献といって、論文の著者が執筆の際に参考にした資料が掲載されています。
このような参考文献を事前に見るなどして、読みたい論文の
著者、論題、掲載されている雑誌の誌名、巻号、ページ、発行年が
事前に分かっている場合は、
その論文が掲載されている雑誌のタイトルで
OPAC、電子ジャーナルポータルを使い検索することができます。

では例として、雑誌『アジア・アフリカ地域研究』をOPACで検索してみます。

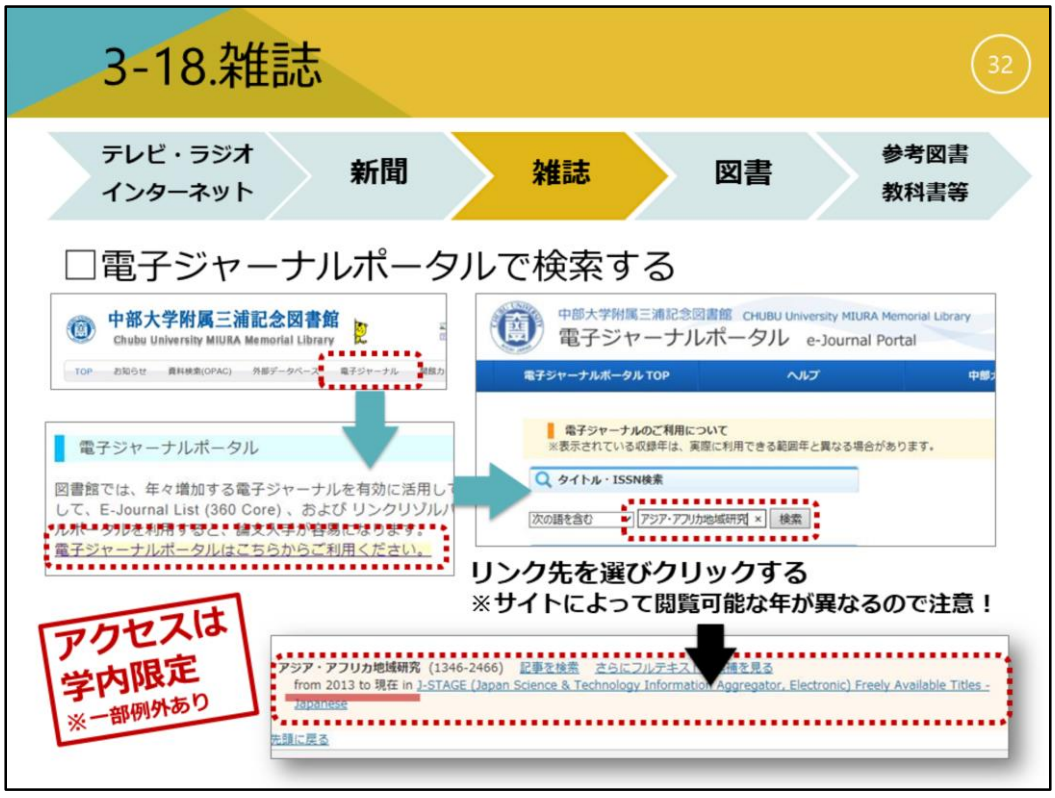


OPACで検索する場合は、【蔵書検索（OPAC）】を使います。

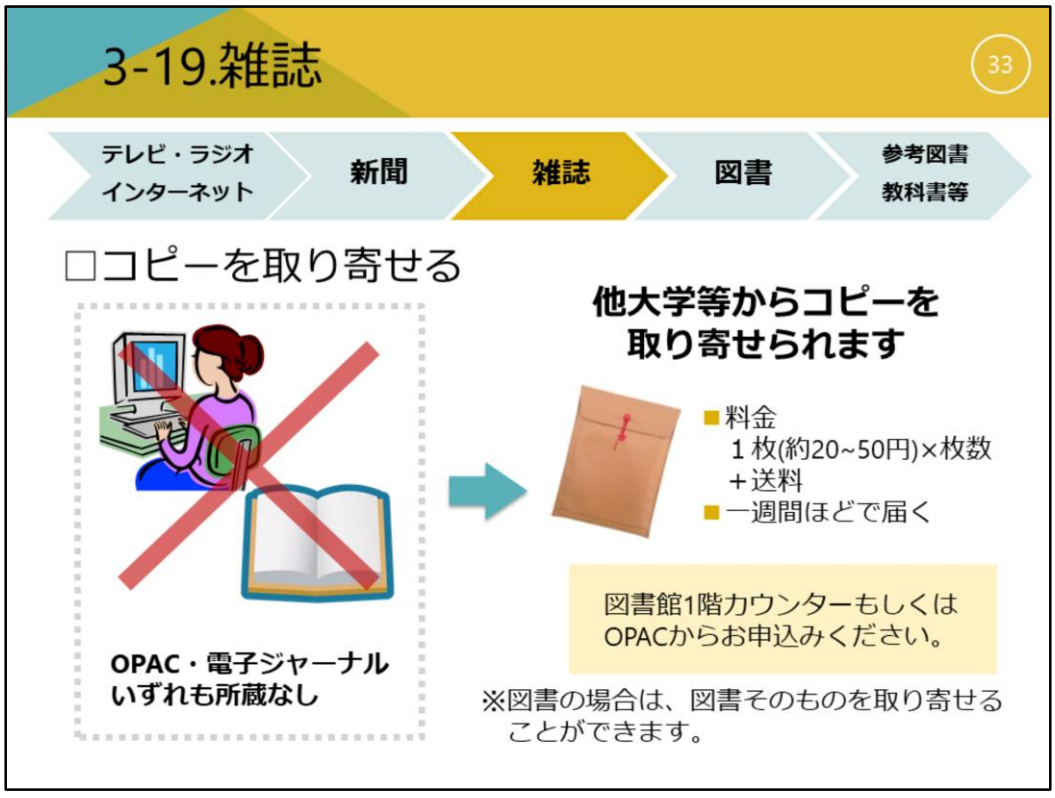
雑誌のタイトル『アジア・アフリカ地域研究』を入力し、検索してみましょう。
あらかじめ雑誌とわかっているので、【雑誌】を選択し、雑誌に絞った検索をします。

検索方法についてもっと詳しく知りたい場合は検索画面の右上にある【？】のアイコンをクリックしてください。
検索方法のヒントをみることができます。

検索結果から自分の見たい雑誌の巻号があるかを確認します。



では、次に電子ジャーナルポータルの検索についてです。
電子ジャーナルで契約している雑誌の多くは洋雑誌となりますが、中には和雑誌もあります。
アクセスは基本的には学内限定ですが、一部学外から利用できるものもあります。
画面では、例として「アジア・アフリカ地域研究」を検索しています。
この場合のリンク先は一つですが、表示されるリンク先によって閲覧可能な出版年が異なることがあります。
自分の読みたい号が見られる方のサイトを選んで閲覧してください。



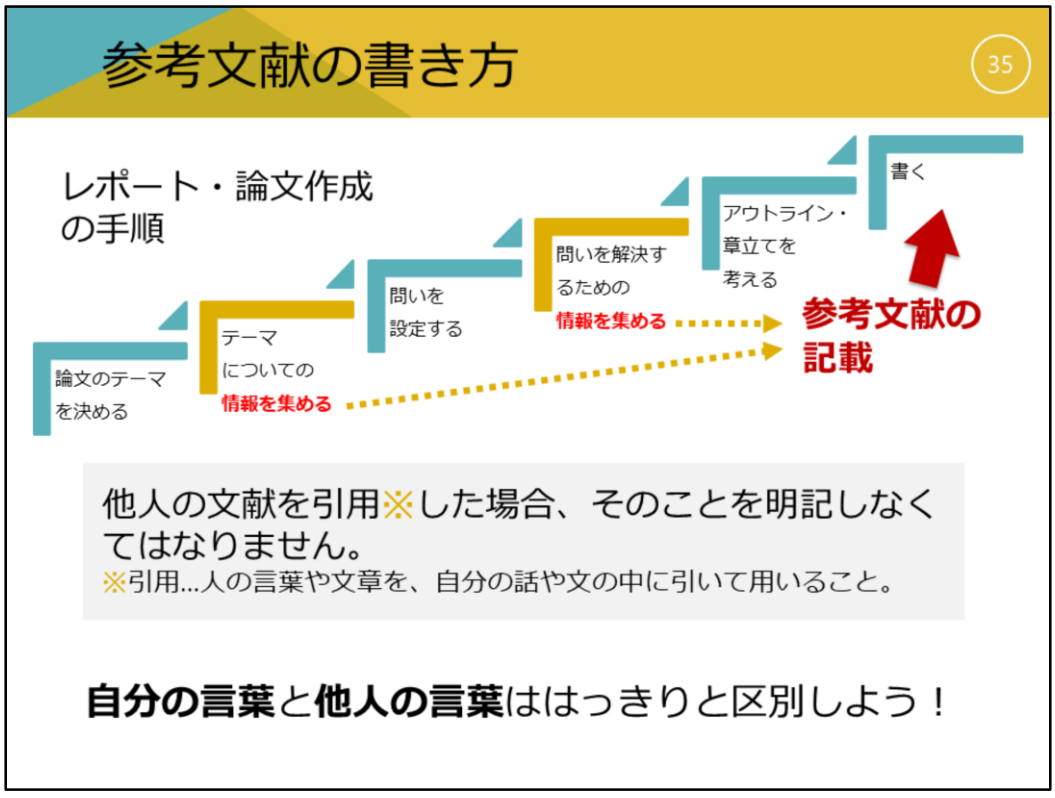
なお、OPAC、電子ジャーナルでいずれも所蔵なし、閲覧不可の場合は、
他大学からコピーを取り寄せることができます。
取り寄せは有料で、コピー代と送料がかかります。
申し込みから1週間ほどでとどきます。
図書館1階カウンター、もしくは図書館ホームページからお申込みください。



それでは、「情報の種類」の最後として、参考図書の説明をしていきます。
参考図書とは辞書や事典のことです。
図書館だと1FとB1Fにありますが、1Fの参考図書は貸出不可となっています。
図書館に行かなくてもWikipediaでなんでも調べてしまうという方は多いと思いますが、
スライド⑦-⑧で説明しましたとおり、インターネットの情報の利用は慎重にならなくてはなりません。

図書館では、【ジャパンナレッジLib】というデータベースを契約しています。
「日本大百科全書」を始め、「大辞泉」「現代用語の基礎知識」、英和・和英辞典などの事典・辞書類を横断検索できます。
アクセスは学内に限定されます。
また、同時アクセス数が1名なので、誰かが利用していると利用ができませんので、利用後は忘れずにログアウトしてください。

「ジャパンナレッジLib」は論文を読んでいて難しい単語があったとき等はこちらのデータベースを利用すると便利です。
ぜひご利用ください。



では最後のプログラム、「参考文献の書き方」です。
再度、レポート・論文作成手順の図を確認してみましょう。

論文の末尾には、参考文献の記載が必要です。
参考文献とは、その論文を執筆するにあたって著者が論文内で引用した文献のリストのことです。

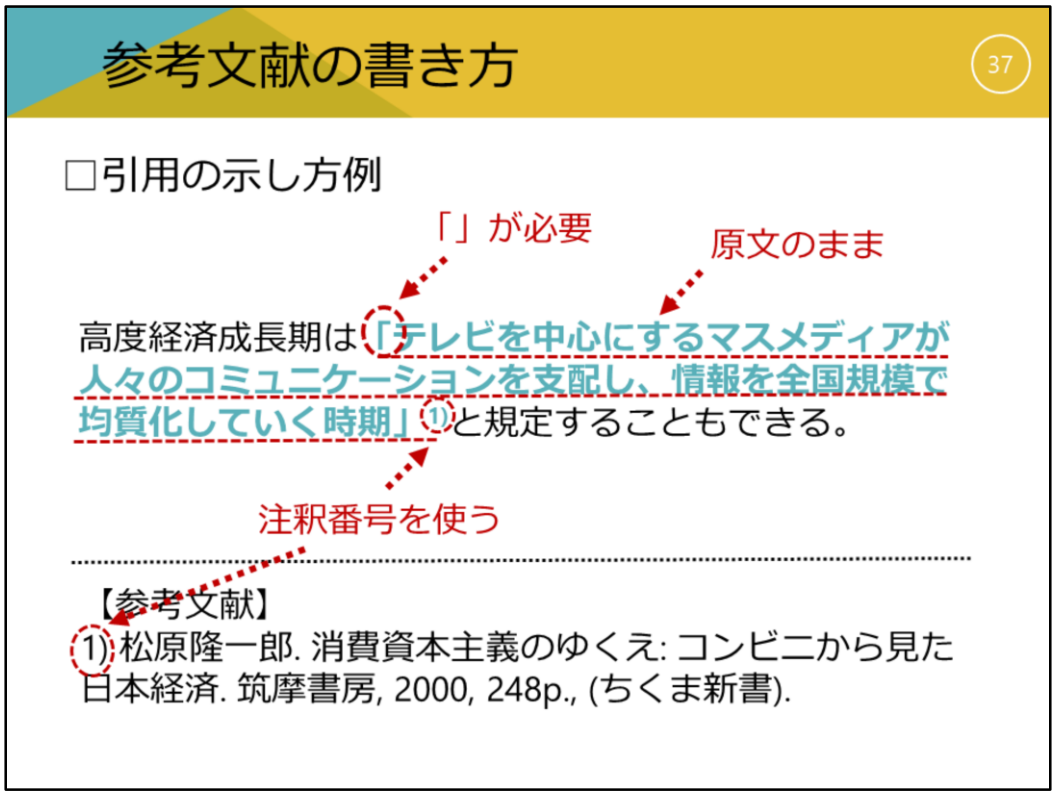
他人の文献を引用した場合は、そのことを明記しなくてはなりません。
文章中においては、自分の言葉と他人の言葉をはっきりとわけて表記しましょう。
他人の言葉を自分の言葉のように使用することは、剽窃（ひょうせつ）といって絶対に行ってはいけないことです。

参考文献の書き方

注意

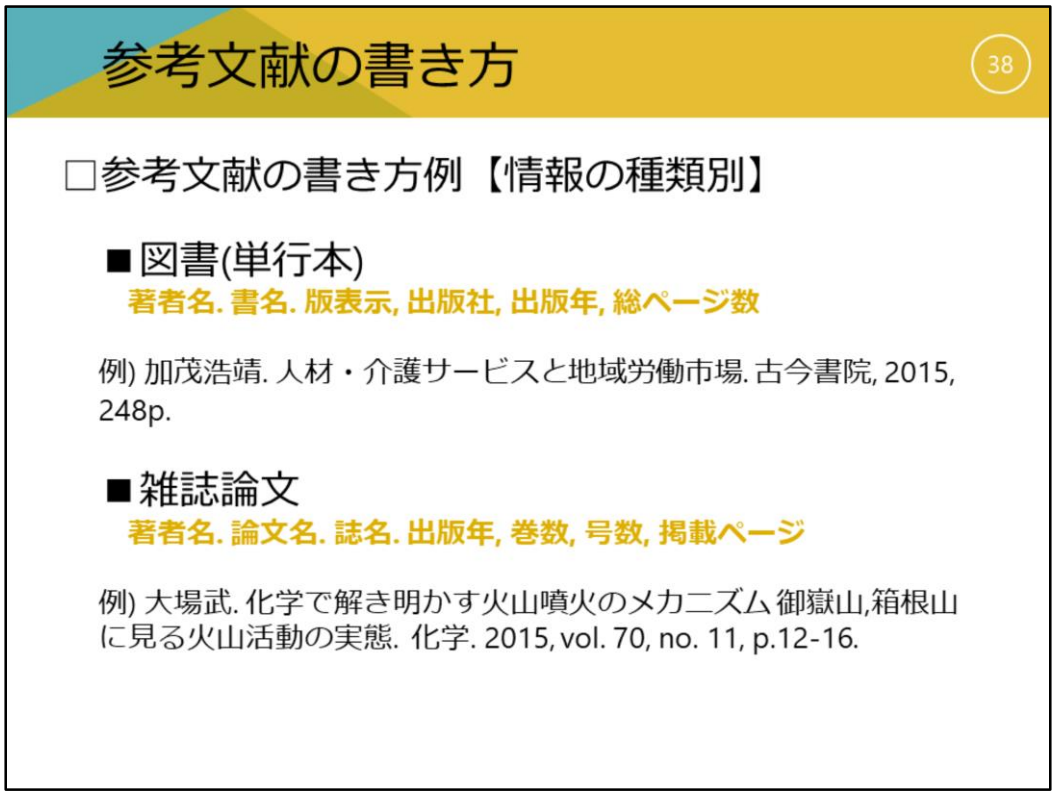


引用の示し方、参考文献の書き方は様々な形式があります。特に参考文献の書き方は学問分野や指導教員によって異なるので確認が必要です。



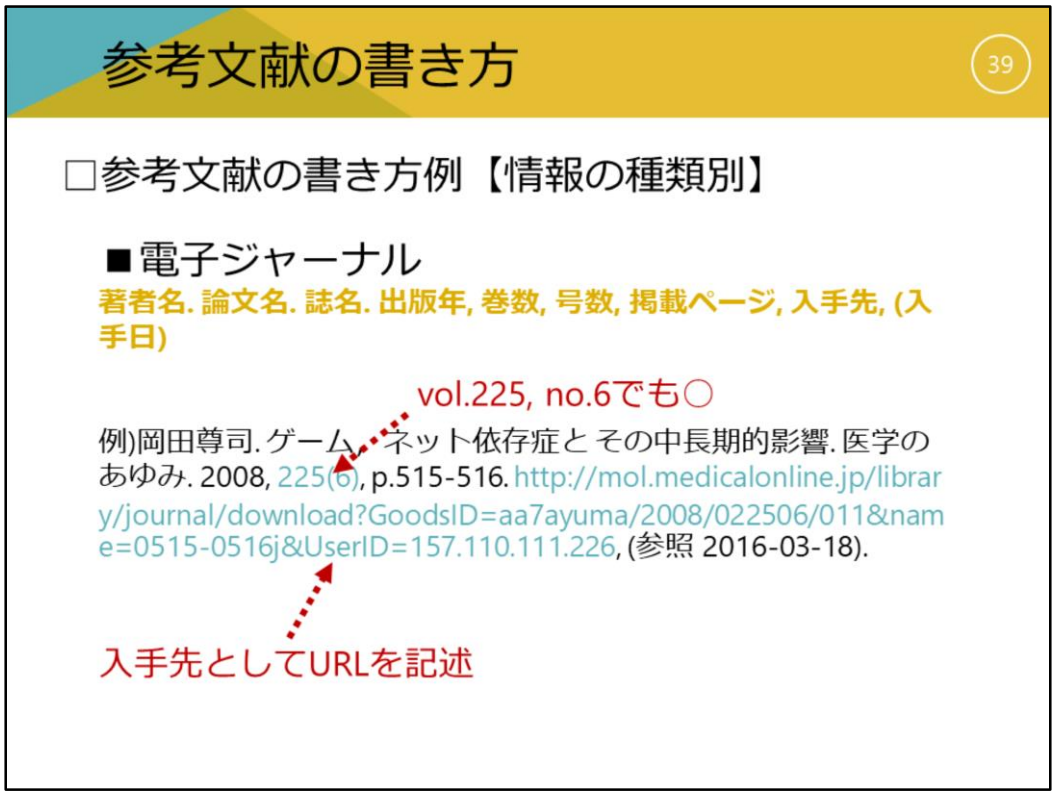
では、まず文章中における引用の示し方の例です。
引用する際、原文のままの文章を掲載する場合は、「」などを使ってどこからどこまでが引用部分であるか明確にします。
また、注釈番号を使いその引用がどの参考文献からのものであるかも明確にします。

引用する文章が長い場合は、文の前後を一行分あけ、段落をさげて引用する方法もあります。
このとき、原文を必ず正確に書き写してください。
また、「」を使わずに、文章を要約して記す方法もあります。



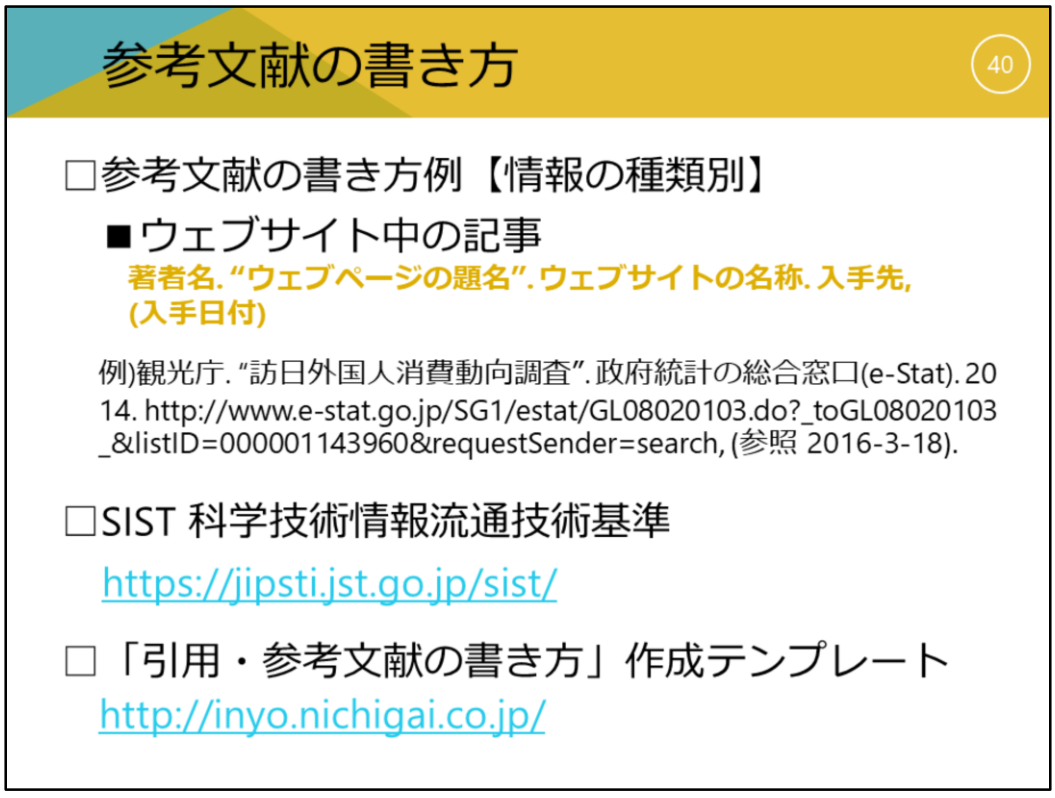
次に参考文献の例です。
情報の種類別になっています。

一例として参考にしてください。



ちなみに、電子ジャーナルの場合は雑誌の書き方と似ていますが、
ページのあとに入手先としてURLを記載します。

また、そのウェブページを参照した年月日も記載します。
巻号の表示はここでは、225(6)と表示しましたが、Vol.225, no.6でも大丈夫です。



ウェブサイト中の記事は次のようになります。

また、これらは、SIST（シスト）科学技術情報流通技術基準のページを参考にしています。
SIST自体の事業は2011年度末に終了していますが、参考文献の書き方など役立つ情報を現在もみることができます。
また、「引用・参考文献の書き方」作成テンプレートを利用すると、必要事項を入力するだけで、参考文献を自動で作成してくれます。

参考文献の書き方

41

□参考文献【さまざまな例】



参考文献

天児慧ほか編(1999)『岩波 現代中国事典』岩波書店.
厳善平(1997)「農村経済の組織再建と制度改革」(中兼和津次編『改革以降の中国農村社会と経済』筑波書房，所収)，pp. 249-292.

文　献

1) 日本透析医学会統計調査委員会：わが国の慢性透析療法の現況．2013 年末の慢性透析患者に関する基礎集計．年末患者の現状 http://docs.jsdt.or.jp/overview/pdf2014/p014.pdf
2) 鈴木隆雄：日本の超高齢社会における "Productive Aging" ―特に後期高齢者の健康の視点から．応用老年学 2014：8：4-13
3) 村田 伸，大山美智江，村田 潤，他：在宅高齢者における身体・認知・精神心理機能の

文　献

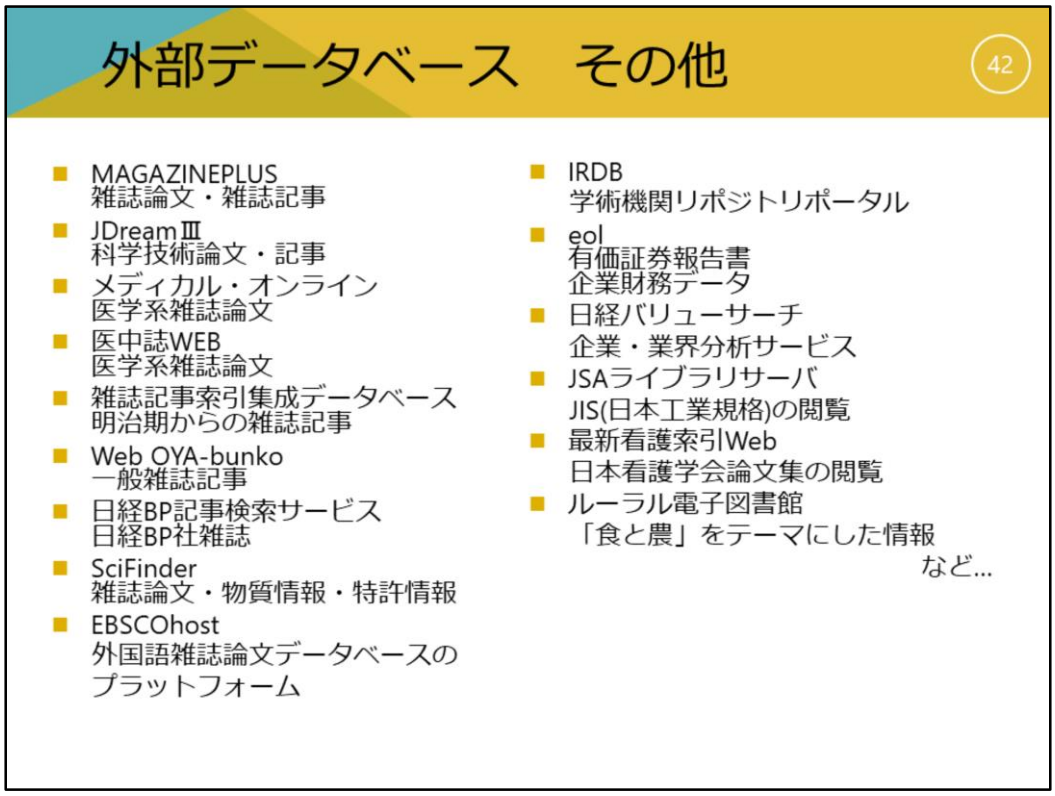
青野寿彦・奥山好男・向後紀代美・合田昭二・竹田秀輝 1972. 奥能登における織布業の創設とその背景 (1)――市町村と農協の対応と対策. 地理学評論 45: 679-702.
合田昭二・竹田秀輝・青野寿彦・奥山好男 1974.

文　献

(1) L. Z. Rubenstein, K. R. Josephson, and S. R. Alan : "Falls in the nursing home", Ann Intern Med, Vol.121, No.6, pp.442-451 (1994)
(2) 須貝佶一・小林奈美：「施設における痴呆高齢者の転倒・転落事故の発生状況と対策」，看護学会誌，Vol.68, No.1, pp.10-18 (2004)
(3) Lv. Qingcong : "A poselet-based approach for fall detection", IT in Medicine and Education (ITME), Vol.2, pp.209-212 (2011)
(4) C. Rougier, J. Meunier, A. Saint-Arnaud, and J. Rousseau : "Monocular 3D head tracking to detect falls of elderly people", In Proc. of 28th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, pp.6384-6387 (2006)
(5) J. S. Brown, E. Vittinghoff, J. F. Wyman, K. L. Stone, M. C. Nevitt, K. E. Ensrud, and D. Grady : "Urinary incontinence: does it increase risk for falls and fractures? Study of Osteoporotic Fractures Research Group", Journal of the American Geriatrics Society, Vol.48, No.7, pp.721-725 (2000)

参考文献のさまざまな例です。
縦書きのものは数字が漢数字になっていたり、かぎかっこと二重かぎかっこを使い分けているものもあります。
また、出版年を著者名の次に並べているものもあります。

このように書き方には様々な形式があります。



では、最後に今日紹介できなかった中部大学で契約している主なデータベースの一覧と、便利なサイトを紹介します。



ほかにも図書館HPのお役立ちリンクから、様々な便利なサイトが利用できます。

※新書はテーマに関する基礎知識を得ることができるため、論文を書く際に便利です。

便利なサイト

- 政府統計の総合窓口(e-Stat)　https://www.e-stat.go.jp/
  政府統計のポータルサイト
- Google scholar　https://scholar.google.co.jp/
  Googleが開発した検索エンジン。分野や発行元を問わず、学術専門誌、論文、書籍、要約、記事を検索できる

文献検索のことで
不明な点がありましたら
図書館1階
レファレンスカウンターまで
おこしください！

